TOSHIBA

ー取扱説明書ー

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために

●ご使用の前に、この取扱説明書「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
●お読みになった後は本機のそばなど、いつも手元に置いてご使用ください。
●この取扱説明書「安全上のご注意」に書かれている内容は、お客様が購入された商品の仕様には含まれない項目も記載されています。

［絵表示について］

●この取扱説明書および製品への表示では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

［絵表示の例］

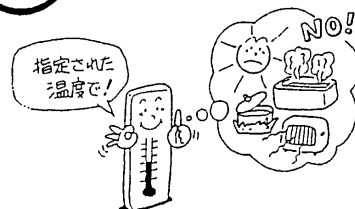
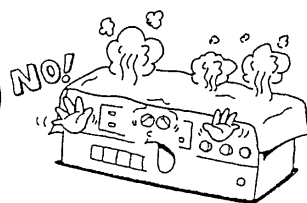
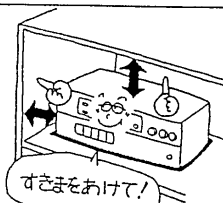
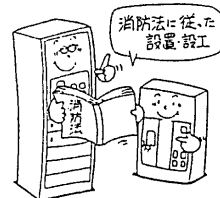
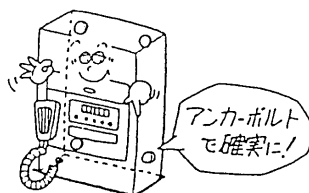
△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図のなかに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

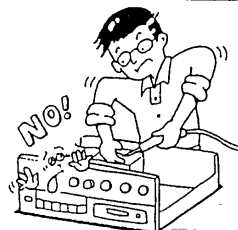
○記号は禁止の行為であることをつげるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

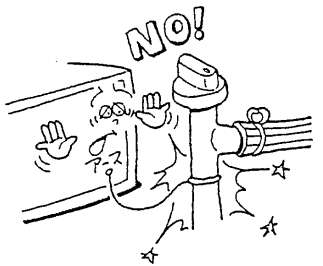
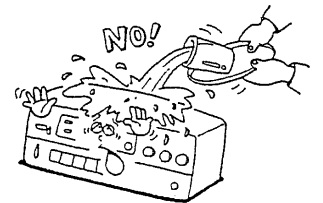
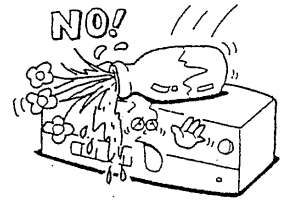
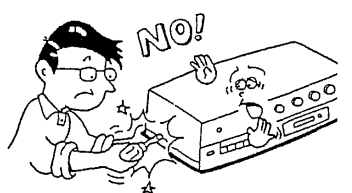
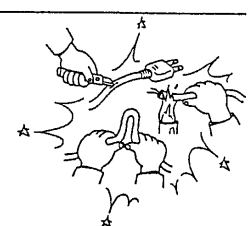
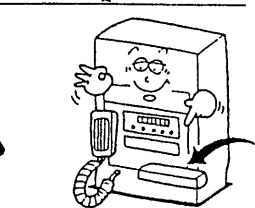
⚠ 警告

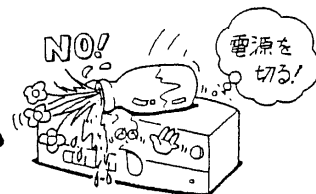
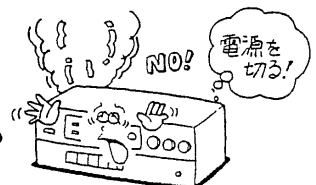
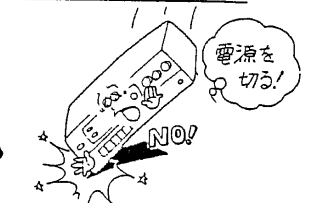
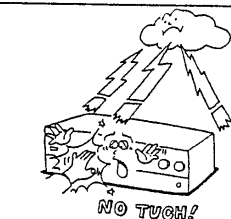
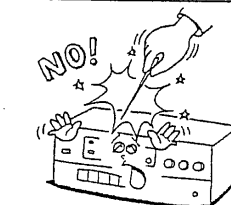
［据付、設置、接続、移動にあたっての注意］

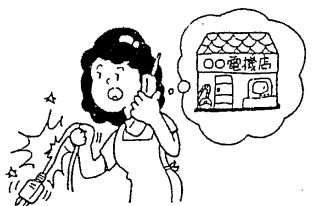
■通風のよい場所に設置してください。高温や湿度、ほこりの多い次のような場所には設置しないでください。火災、感電の原因となります。
- ・サウナや風呂場など
- ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所
- ・直射日光のあたる場所
- ・電気、ガス、石油ストーブなどの暖房器具の真上やその付近
- ・有害ガスやいろいろなほこりが特に多い所

■この機器の通風孔はふさがないでください。通風孔をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となります。次のような使い方はしないでください。
- ・風通しの悪い狭い所におしこむ。
- ・テーブルクロスなどをかけ通風孔を塞ぐ。
- ・側面を壁にぴったりとつけ、通風孔を塞ぐ。

■この機器を設置する場合、左右、上下に間隔をあけて据え付けてください。また放熱をよくするためにラックなどに入れるときは、上下にすきまをあけてください。
内部に熱がこもり火災の原因となります。

■非常放送設備は消防法でその施工に関して定められています。法令に従って機器の選定、設置、配線、接続、点検を行ってください。

■据えつけは指定のアンカーボルトでしっかりと固定してください。指定以外のアンカーボルトを使用したり、固定がゆるいと地震発生時機器が落下したり倒れたりしてけがの原因となります。

■表示された電圧（交流１００Ｖ）以外の電圧で使用しないでください。火災、感電の原因となります。

■この機器は改造しないでください。
火災、感電の原因となります。

⚠ 警告

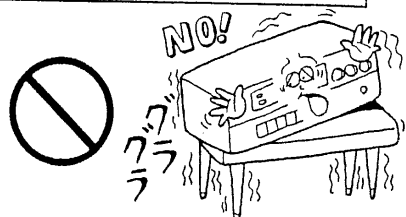
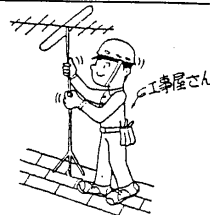
■ＡＣ１００Ｖ関係の配線工事は電気工事士にご依頼ください。
一般の人が行うことは法により禁じられています。

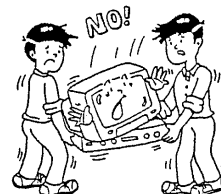
■必ずアース端子は接地してください。
・感電事故防止のため、および外来ノイズから機器を守るノイズ吸収素子の働きを活かすために、必ずアース端子を接地してください。
・ガス管にアースすると危険ですから絶対におやめください。
・アースは第３種接地工事（接地抵抗１００Ω以上）とし、専用としてください。

[使うときの注意].
■この機器に水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。
火災、感電の原因となります。

■この機器の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。
こぼれたり、中に入った場合、火災、感電の原因となります。

■この機器のキャビネットは、専門知識を持った人以外は絶対に外さないでください。感電の原因になります。
内部の点検、調整、修理は販売店にご依頼ください。

■電源コードを傷つけたり加工したり無理に曲げたりねじつたり、引っ張ったり加熱したりしないでください。コードが燃焼して火災、感電の原因となります。

■電池を充電するときは、この機器に組み込んで充電してください。充電器等を使用すると電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

警告

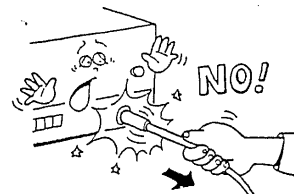
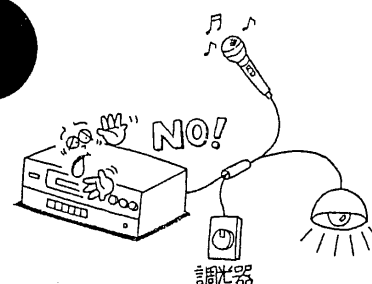
■万一、機器の内部に水や金属物などが入った場合は、まず
放送を中止し、内部の主電源スイッチを（専門知識を持った
人が）切るか、電源を断にするかして販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災、感電の原因となります。

■万一、煙が出ている、変な臭いがする、異常な音がするなどの
異常状態のまま使用すると火災、感電の原因となります。
すぐに放送を中止し、内部の主電源スイッチを（専門知識
を持った人が）切るか、電源を断にするかして、煙が出なく
なるのを確認してから、販売店に修理をご依頼してください。

■万一、この機器が落下したり、キャビネットを破損した場合は、
内部の主電源スイツチを（専門知識を持った人が）切るか、
電源を断にするかして販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災、感電の原因となります。

■雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグ、
本体には触れないでください。感電の原因となります。

■この機器の通風孔から内部に金属類や燃えやすいものなどを
差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災、感電の原因となります。

［お手入れ、保守、点検にあたっての注意］

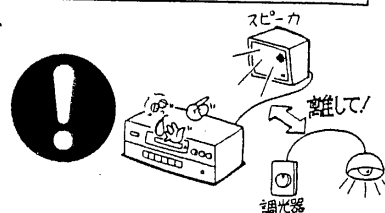
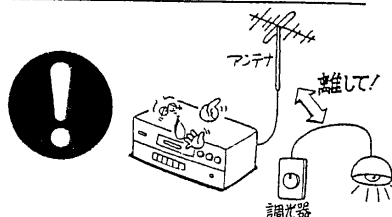
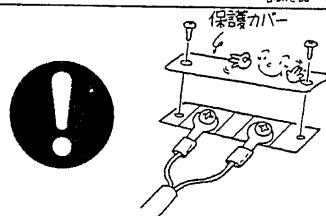
■電源コードが痛んだら（芯線の露出、断線など）
販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災、感電の原因となります。

注意

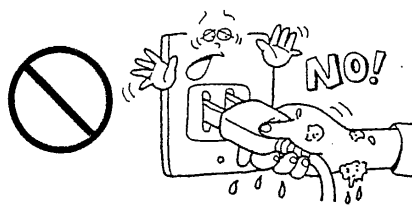
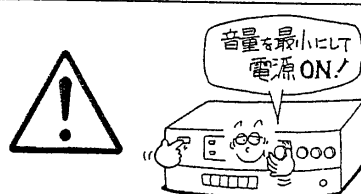
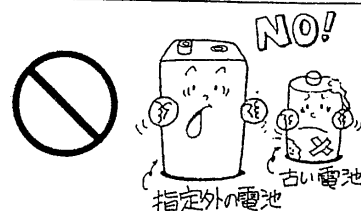
［据付、設置、接続、移動にあたっての注意］

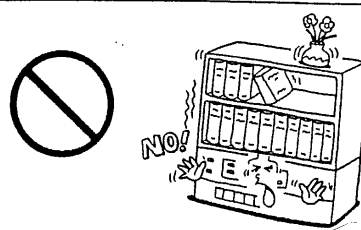
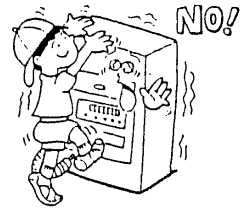
■ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に
置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることが
あります。

■アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、
販売店にご相談ください。送配電から離れた場所に設置
してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となる
場合があります。

■移動させる場合は内部の主電源スイッチを（専門知識を
持った人が）切るか、電源を断にし、外部の接続コードを
外してから行ってください。そのままで移動すると
コードに傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

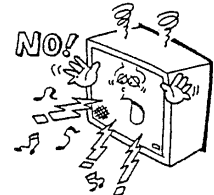
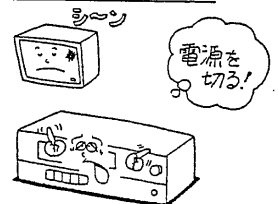
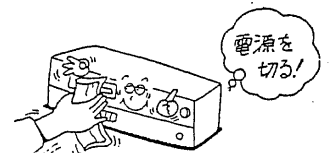
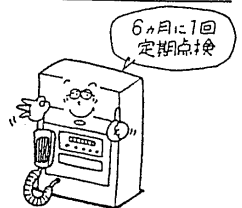
■この機器の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動
しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因と
なることがあります。

■機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、
電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は
指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用
したり、延長したりすると、発熱しやけどの原因となることが
あります。

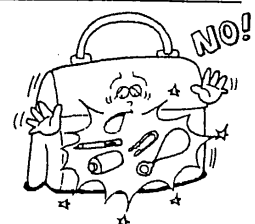
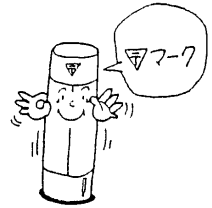
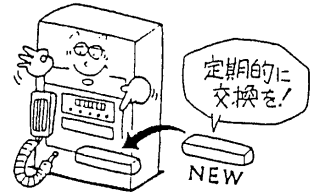
■電源コードや接続機器類のコードを抜くときは、コードを
引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の
原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

■アンプの入力線はスピーカ線や調光器系統、ＡＣ電源系統とは
必ず別配管とし離して布線してください。
同一配管しますと、発振やノイズ発生、誤動作の原因と
なります。

注意

■スピーカ線と調光器、高圧放電灯（水銀ランプ、メタルハライドランプ）などの配線は離して布線してください。
ノイズ発生や誤動作の原因となります。

■アンテナ線と調光器 、高圧放電灯（水銀ランプ、メタルハライドランプ）などの配線は離して布線してください。
ノイズ発生や誤動作の原因となります。

■施工完了後は必ず取り外した端子カバー、保護カバー等は元どおりに戻してください。戻し忘れると感電、地絡の原因となります。

[使うときの注意]

■濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

■電源を入れる前にアンプの音量（ボリューム）を最小にしてください。
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

■指定以外の電池は使用しないでください。
電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲汚損の原因となります。

■充電式電池に貼ってあるビニールカバーははがさないでください。ショートして電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■この機器の上に重いものや、外枠からはみ出るような大きいものを置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり落下してけがの原因となることがあります。

■この機器の上に乗ったりしないでください。
特にお子様にはご注意ください。
こわれたりして、けがの原因となることがあります。

■ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■長時間音が歪んだ状態で使わないでください。
スピーカが発熱し、火災の原因となることがあります。

■使用中に突然音が出なくなったなどの異常が生じたときは、すぐに内部の主電源スイッチを（専門知識を持った人が）切るか、電源を断にしてお近くの販売店にご相談ください。
そのまま放置しておくと、大変危険です。

［お手入れ、保守、点検にあたっての注意］
■お手入れの際は、安全のため内部の電源スイッチを（専門知識を持った人が）切るか、電源を断にしてから行ってください。

■この機器は消防法で6ヶ月間に1回の定期点検が義務づけられています。点検の有資格者（甲種消防設備士）に6ヶ月間に1回の定期点検を依頼してください。

■1年に一度ぐらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。

■電池は電線、工具や電気部品などと一緒に保管しないでください。電池のプラス端子とマイナス端子がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ヒューズを交換するときは必ず▽マークの指定容量のものをご使用ください。針金や銅線は使用しないでください。機器の保護ができず、発熱、火災の原因となります。

■バッテリーなど部品交換の必要がある機器は適時交換してください。交換を忘れるといざという時正常に動作しない原因となります。

［廃却するときの注意］

■バッテリーなど中に有害物資を含んだ物は一般のごみと一緒に処置できません。
必ず専門の業者に依頼するなど十分に注意して処理してください。

東芝ライテック株式会社 照明電材事業部 〒140 東京都品川区南品川2丁目2番13号（南品川JNビル） TEL（03）5463－8779

TOSHIBA 東芝壁掛形非常放送アンプ取扱説明書

対象機種	AWF-1000RBシリーズ AWH-1010RB……壁掛形非常放送アンプ本体(10局) AWH-1020RB……壁掛形非常放送アンプ本体(20局) AWH- 600PA……電力増幅器ユニット(60W) AWH-1200PA……電力増幅器ユニット(120W) AWH-2400PA……電力増幅器ユニット(240W)

このたびは東芝壁掛形非常放送アンプをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
お求めの壁掛形非常放送アンプを正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、お読みになったあとは必ず保存してください。

目　次

工事店様へ 工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。
お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

各部のなまえ

①非常起動スイッチ
②火災灯
③非常復旧スイッチ
④主電源/非常電源電圧計
⑤蓄電池点検スイッチ
⑥連動一斉表示灯
⑦連動停止注意灯
⑧マイク指示灯
⑨非常・業務兼用マイクロホン
⑩モニタスピーカ
⑪モニタ音量調節器
⑫主電源表示灯
⑬充電中表示灯
⑭リモコン回線異常表示灯
⑮コンピュータ異常表示灯
⑯蓄電池異常表示灯
⑰他機放送中表示灯
⑱放送可能表示灯
⑲放送出力レベル計
⑳火災音用ブザー
㉑発報放送表示灯
㉒火災放送表示灯
㉓火災放送スイッチ
㉔非火災放送表示灯
㉕非火災放送スイッチ
㉖音声警報指示灯
㉗放送復旧スイッチ
㉘チャイムスイッチ
㉙一斉放送スイッチ
㉚ブロック選択スイッチ
㉛放送階選択指示灯
㉜出火階表示灯
㉝階別作動表示灯(短絡表示灯兼用)
㉞放送階選択スイッチ
㉟ライン２入力音量調節ツマミ
㊱ライン３入力音量調節ツマミ
㊲マイク１入力音量調節ツマミ
㊳マイク２入力音量調節ツマミ
㊴ブランクパネル
㊵マイクコード通線穴

各部のなまえとはたらき
電源
主電源/非常電源
蓄電池点検
主電源
④主電源/非常電源電圧計
●常時は主電源電圧を表示します。
●蓄電池点検時は、蓄電池の電圧を表示します。
⑤蓄電池点検スイッチ
●蓄電池の電圧を点検するときに押します。
①非常起動スイッチ
●手動で非常放送するときおよび火災放送するときに押します。
②火災灯
●自火報(自動火災報知設備)または非常起動スイッチからの起動により点灯または点滅します。
●感知器起動時および手動起動時の火災放送移行へのタイマー動作中は点滅します。
③非常復旧スイッチ
●非常放送終了時に押します。
●非常放送が復旧します。
発報連動
連動一斉
連動停止
⑥連動一斉表示灯
●自火報との連動を連動一斉に設定したときに点灯します。
●設定、解除はマイク扉内のキースイッチでできます。
⑦連動停止注意灯
●自火報との連動を停止に設定したときに点灯します。
●設定、解除はマイク扉内のキースイッチでできます。
⑧マイク指示灯
●非常放送時点滅により操作手順を知らせます。
●マイク放送しているときは点灯します。
⑨非常・業務兼用マイクロホン
●トークスイッチを押しながら放送します。
⑩モニタスピーカ
●放送内容をモニタできます。
●非常放送時は操作ガイドの音声もでます。
⑪モニタ音量調節器
●モニタスピーカの音量を調節できます。大、中、小の3段階に調節できます。
●非常・業務兼用マイクロホンを使用時にはハウリング防止のため、トークスイッチを押すと自動的にモニタ音量は低下します。
電源
主電源
充電中
⑫主電源表示灯
●電源が供給されているとき点灯します。
⑬充電中表示灯
●常用電源(AC 100V)を受電中、内蔵の蓄電池を充電しているときに点灯します。
異常
リモコン回線
コンピュータ
蓄電池
⑭リモコン回線異常表示灯
本体と非常業務リモコン間の回線に異常があると点灯します。
⑮コンピュータ異常表示灯
コンピュータに異常が生じると点灯します。
⑯蓄電池異常表示灯
蓄電池に異常が生じると点灯します。
動作
他機放送中
放送可能
出力レベル
-10 -5 0 +3 +6 dB
⑰他機放送中表示灯
●非常業務リモコン放送、業務リモコン放送および外部放送等をしているとき点灯します。
⑱放送可能表示灯
●本体の放送階選択スイッチ、一斉スイッチおよびブロックスイッチを押して放送可能な状態となると点灯します。
⑲放送出力レベル計
●放送される音の出力レベルを表示し、音の大小に応じて点灯します。
●音が大きすぎると赤色が点灯します。緑色が点灯する範囲でご使用ください。
⑳火災音用ブザー
●非常放送時の火災音用のブザーです。
3 音声警報
発報
火災
非火災
㉖音声警報指示灯
●非常放送時点滅により、操作手順を知らせます。
㉑発報放送表示灯
●発報放送中に点灯します。
㉒火災放送表示灯
●火災放送中に点灯します。
㉔非火災放送表示灯
●非火災放送中に点灯します。
㉓火災放送スイッチ
●火災放送するときに押します。
㉕非火災放送スイッチ
●非火災放送するときに押します。
TOSHIBA
非常起動
火災
非常用放送設備
㉗放送復旧スイッチ
●放送終了時に押します。
●選択されていた回線が解除され復旧します。
㉘チャイムスイッチ
●放送前の予告音としてチャイム音を放送する時に押します。
●4音の電子チャイム音が、1回放送されます。
㉙一斉放送スイッチ
●非常および業務放送時、全回線一斉に放送するときに押します。
●再度押すと復旧します。
㉚ブロック選択スイッチ
●業務放送時、ブロック指定した回線に放送するときに押します。
㉛放送階選択指示灯
●非常放送時点滅により操作手順を知らせます。
●非常放送時は、放送階が選択されると点灯します。
●業務放送時は、緊急放送のとき点灯します。
㉜出火階表示灯
●自火報(自動火災報知設備)等から起動がかかると点灯し、出火階を表示します。
㉝階別作動表示灯(短絡表示灯兼用)
●放送先が選択され放送可能になったとき点灯します。
●スピーカ回線が短絡すると保護ヒューズが溶断しその回線は自動的に切り離され作動表示灯は点滅します。
放送階選択
㉞放送階選択スイッチ
●非常または業務放送時、階別または系統別に放送するときに押します。
●再度押すと復旧します。
ライン2
ライン3
マイク1
マイク2
0 5 10
㉟ライン2入力音量調節ツマミ
㊱ライン3入力音量調節ツマミ
㊲マイク1入力音量調節ツマミ
㊳マイク2入力音量調節ツマミ
●放送出力レベル計により、各入力音量を調節します。
㊴ブランクパネル
●ラジオチューナユニット等の別売のユニットを組込むことができます。

マイク扉内

㊹発報連動停止スイッチ

- 感知器からの起動時の連動条件を設定します。
- 囲スイッチを押しながら押しますと順次モードが下表のとおり変わり、表示灯が点灯、消灯します。

モード	⑥連動一斉表示灯	⑦連動停止表示灯
連動	消灯	消灯
連動一斉	点灯	消灯
連動停止	消灯	点灯

㊵書き込みスイッチ

- 書き込み時に押します。

㊶コンピュータ制御スイッチ

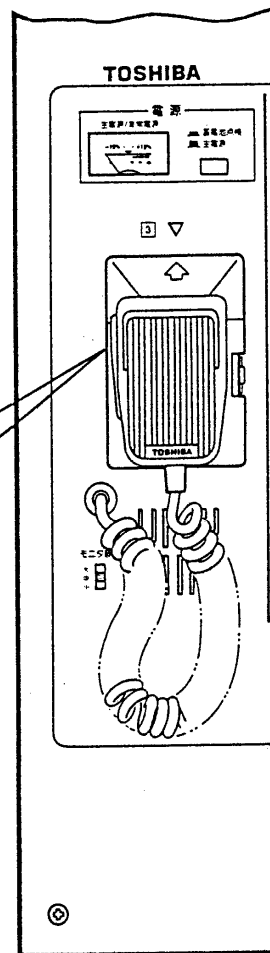
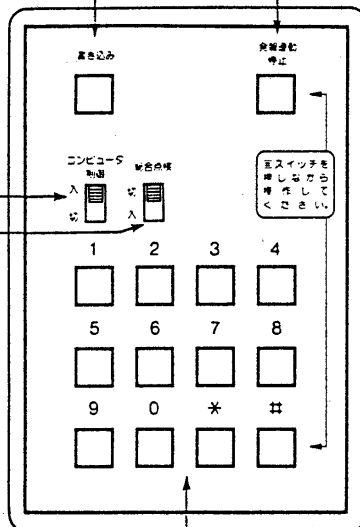
コンピュータ制御　入　切

- 通常は「入」の位置にします。
- 異常等で修理した後は、このスイッチを「切」にしてから「入」にしてください。正常の動作に戻ります。
（コンピュータのリセットスイッチとなります。）
- コンピュータが異常となったとき、コンピュータ制御スイッチを「切」にすると非常・業務兼用マイクロホンにより一斉緊急放送ができます。

㊷総合点検スイッチ

- 総合点検するときに「入」に切りかえます。スピーカから音を出さずに動作点検ができます。
- 通常は「切」の位置とします。

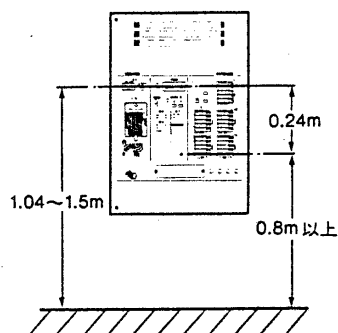
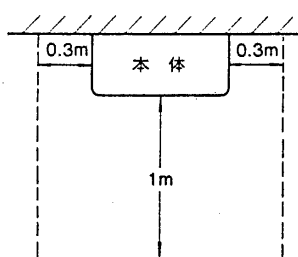
㊸テンキースイッチ

- 書き込み等の時に使用します。

特にご注意を

■必ずアースを取り付けてご使用ください。
●感電事故防止のためアース端子と大地間のアースを必ずとってください。ガス管にアースしますと危険ですから絶対におやめください。
■通風のよい場所に設置してください。
●湿度の高い所や温度の高い所での使用は避けてください。またアンプの通風孔をふさぐようなことはおやめください。また、操作の妨げにならないよう左右0.3m以内、操作面1m以内には物を置かないでください。
■アンプの改造は絶対にしないでください。
●電気用品取締法、消防法にふれることがありますので改造は絶対におやめください。
■ヒューズは〒マークの指定容量のものと交換してください。
●針金や銅線をヒューズのかわりに使用しないでください。また交換するヒューズは指定容量のものを必ずご使用ください。
●なおヒューズの交換は、お買いあげの販売店か、お近くの東芝お客様ご相談センターに、ご相談ください。

■分電盤のスイッチは絶対に切らないでください。
●停電時でも放送できるよう非常電源が組み込まれており、常に充電していますので分電盤のスイッチは絶対に切らないようにしてください。
■異物は感電や故障の原因となります。
●機器内にピンなどの金属物が入った場合、故障、感電、火災などの原因になり大変危険です。万一金属物が入ったときはすぐにお買いあげの販売店か、お近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。
■スピーカへの配線とアンプの入力線（マイクロホンコードなど）は同一配管で布線しないでください。発振の原因となります。
■汚れを落とすときは、中性洗剤（台所用）をご使用ください。シンナーやベンジン、または化学ぞうきんなどを使用しますと変形、変色することがありますので絶対に使用しないでください。

設置上のご注意

■本機は重量が約29～37kgありますので、しっかりした壁（コンクリートなど）に取付けてください。
■通風のよいホコリの少ないところに設置してください。
■温度の高いところ（直射日光のさしこむ窓、ストーブなどの暖房機器の近く）や湿気の多いところ（水道の蛇口の近く、厨房など）には設置しないでください。
■取付け高さは床面から非常起動スイッチまでが1.04～1.5mです。

■操作の妨げにならないよう下図の範囲内に障害物等を置かないでください。

■設置場所については消防法で、次のように規定されています。

①増幅器及び操作部は守衛室等常時人がいる場所（中央管理室が設けられている場合には当該中央管理室）に設けること。
　―消防法施行規則第25条の2の3のル―

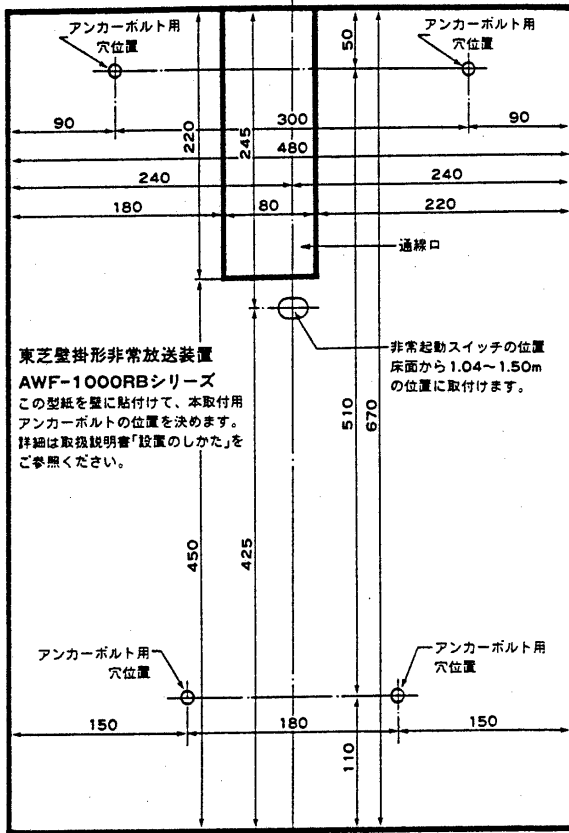
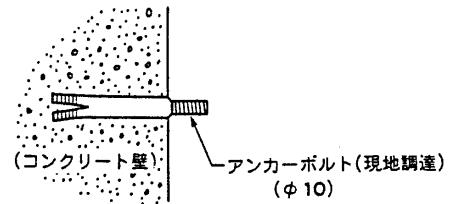
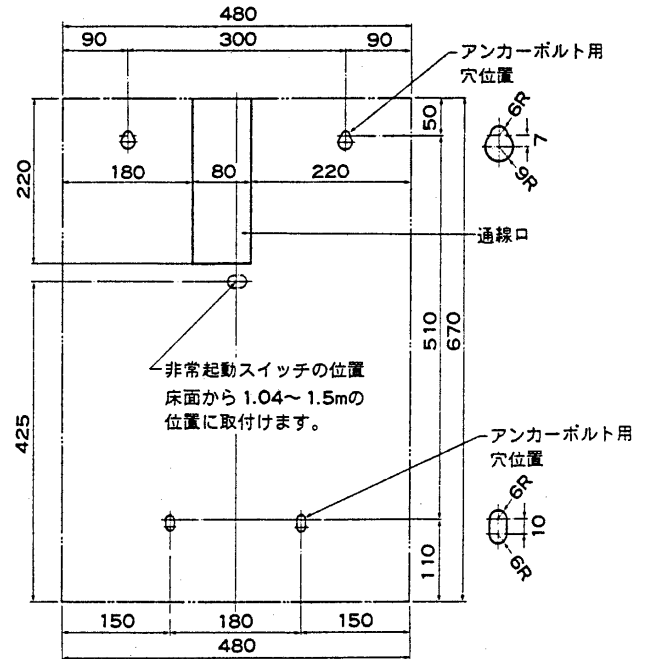
②増幅器、操作部及び遠隔操作器は点検に便利でかつ、防火上有効な措置を講じた位置に設けること。
　―消防法施行規則第25条の2の3のト―

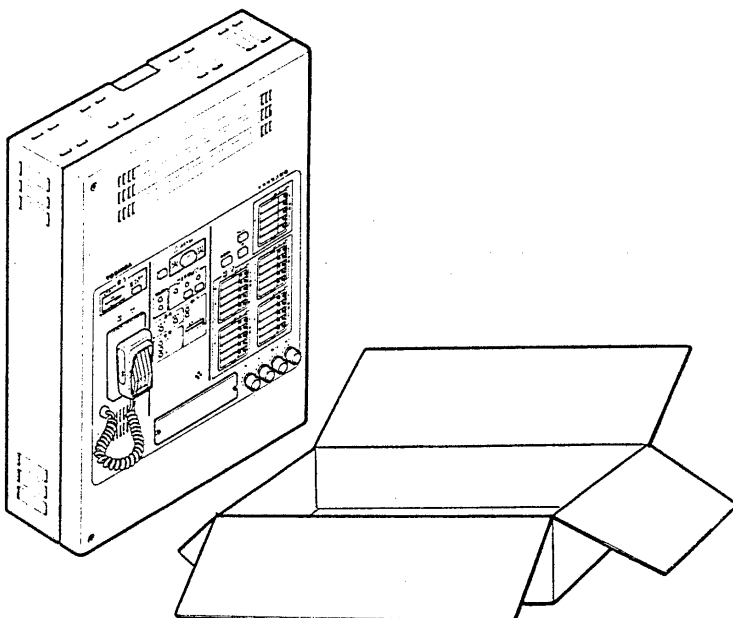
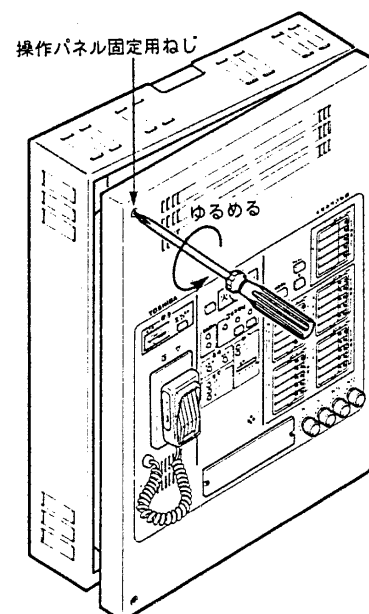
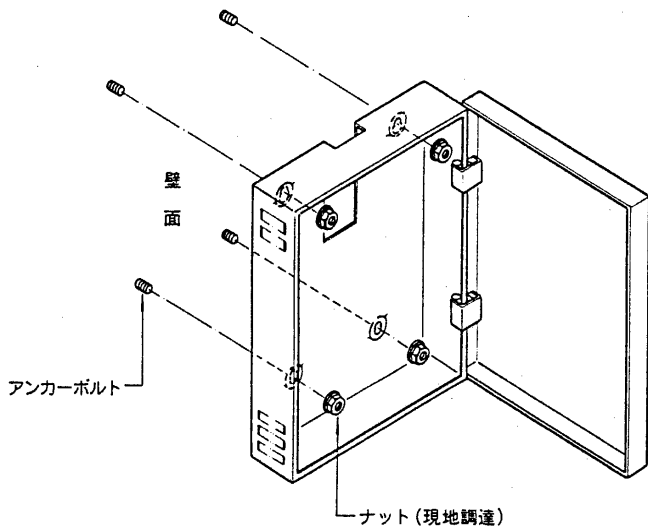
③操作部の操作スイッチは、床面からの高さが0.8メートル以上1.5メートル以下の箇所に設けること。
　―消防法施行規則第25条の2の3のニ―

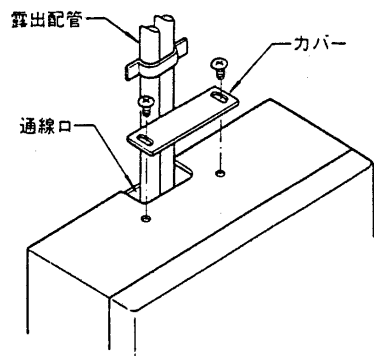
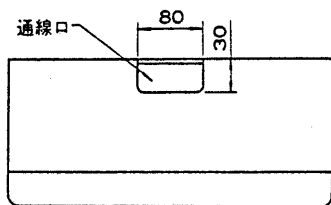
④一の防火対象物に二以上の操作部が設けられているときは、これらの操作部のある場所相互で同時に通話することができる設備を設けており、かつ、いずれの操作部からも当該防火対象物の全区域に火災を報知することができるものであること。
　―消防法施行規則第25条の2の3のヲ―

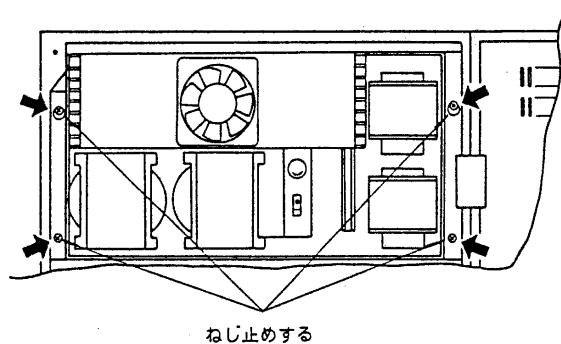
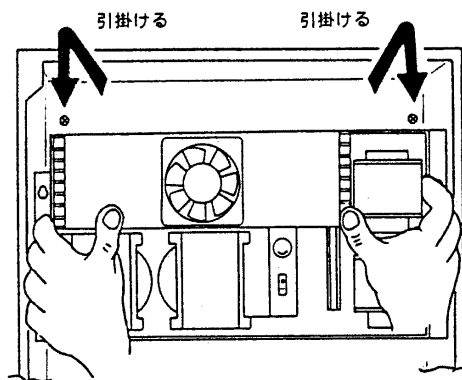
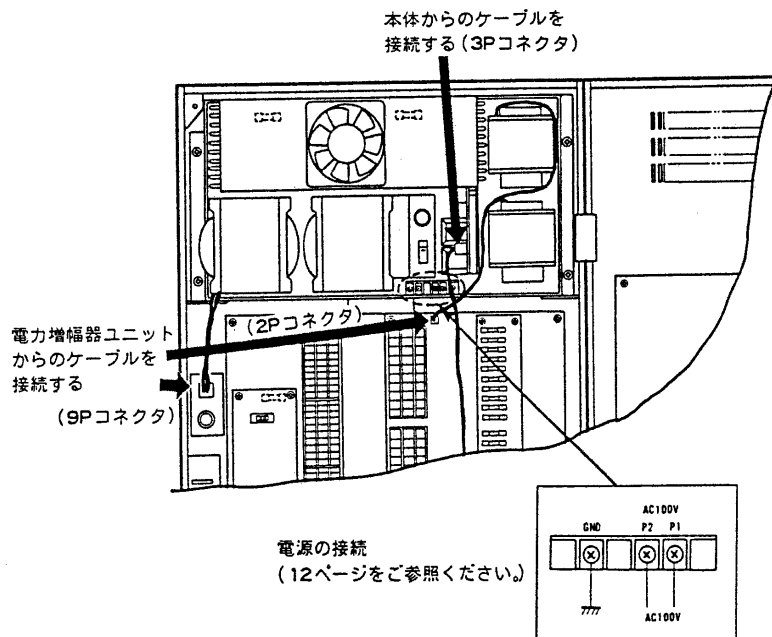
設置のしかた

■取付位置の決定

①付属の取付用型紙を、非常起動スイッチの位置が床面から1.04m～1.50mの所にくるように、壁に貼付けます。

②取付用型紙の「アンカーボルト用穴位置」に合わせて4ヶ所にアンカーボルトを打ち込みます。

取付寸法図

■設置のしかた

①梱包箱から本体を取り出します。付属品予備品など、失くさないよう注意してください。

②操作パネルを固定しているねじ2本をゆるめ、操作パネルを開けます。

③壁面に打ち込んだアンカーボルトに本体の４ヶ所の取付穴を通し、ナットで固定します。

④スピーカ、外部機器の接続をします。（詳細は〝接続のしかた〟をご参照ください。）

● 露出配管のときは、本体上部の通線口から、金属などの異物が入らないようにカバーをねじでしめてください。

２本のねじをゆるめ、カバーをスライドさせます。

⑤別売の電力増幅器ユニットを本体の２ヶ所のねじに引掛けて固定し、４ヶ所でねじ止めします。

⑥電力増幅器ユニットからのケーブルおよび本体からのケーブルをコネクタで接続します。電源（AC100V）を接続します。

⑦非常用蓄電池を取付けます。
● 非常用蓄電池（別売）は、収納部に図のように収納しコネクタを確実に接続してください。極性をまちがえたり、ショートさせますと、蓄電池や部品を破損することがありますからご注意ください。

● 非常用蓄電池はお買いあげのときまたは、試験放送（10分程度使用した場合）などでお使いになった場合、充電は48時間程度で満充電となります。

⑧操作パネルを閉め、操作パネル固定用ねじで固定します。

組み込みユニットの取付けかた

■本機は別売のユニットを組み込んで使用することができます。

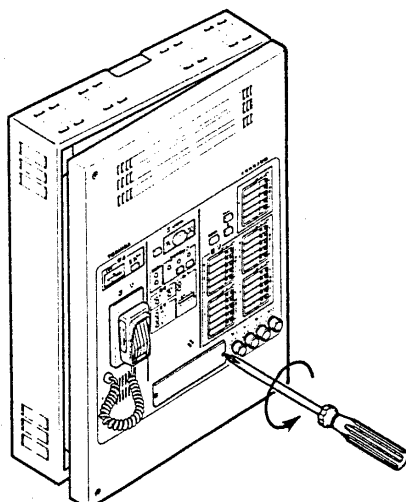
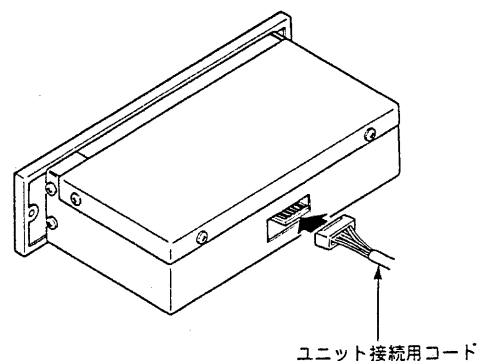
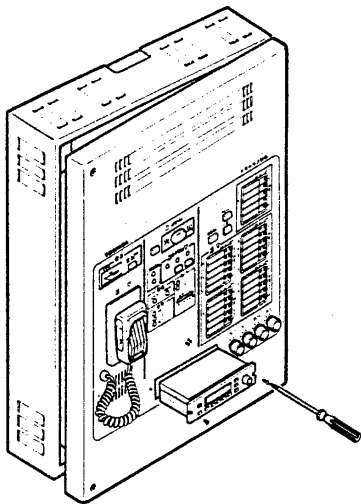
組み込み可能なユニットは次の 機種です。

AM・FMラジオチューナユニット（形名：ARU－2200AF）

オートリバースカセットユニット（形名：ATU－1100C）

■ 取付けかた

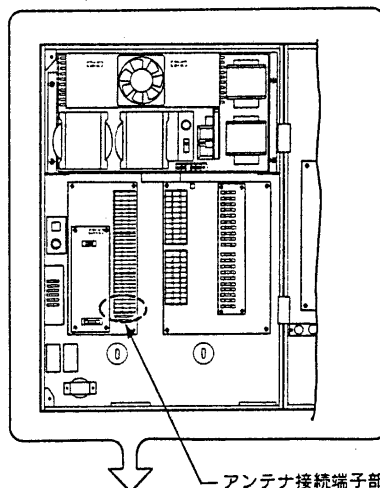
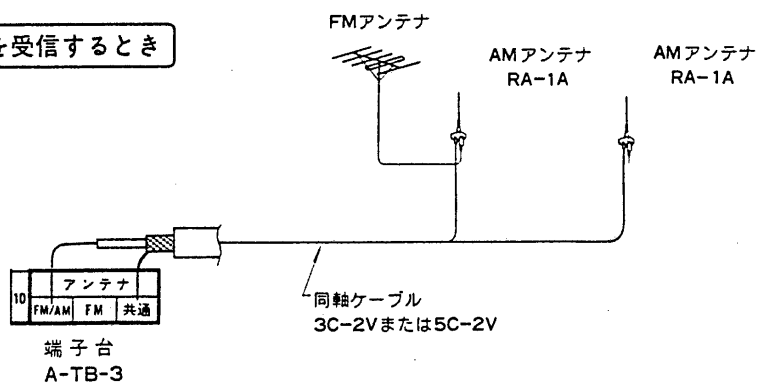
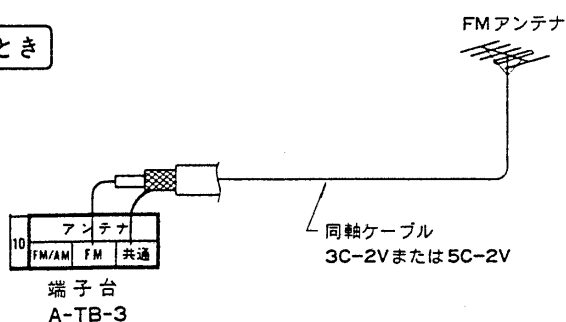
①本体のユニット収納部はブランクパネルでカバーされています。このブランクパネルを止めているねじ２本をドライバーではずしてください。

②ブランクパネルの裏に固定されている１本の接続用コード(7P)を組み込むユニットに接続してください。

（ARU-2200AF の例）

③ユニットを本体のユニット収納部に差し込み、ねじ2本で本体パネルに固定してください。

④ラジオチューナユニットを組み込んだ場合は必ず外部アンテナを設置してください。

ご注意

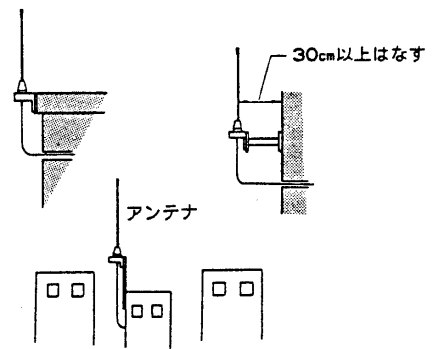
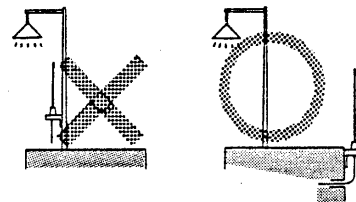
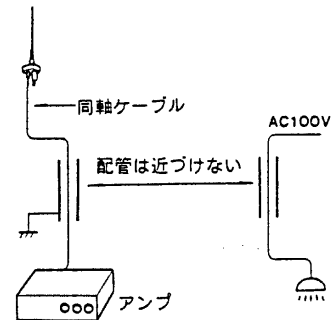
チューナユニットを取付ける場合はあらかじめ外部アンテナを下記の〝アンテナの接続のしかた〟に従って接続してください。
チューナユニットに付属のAM用ループアンテナは本機では使えません。

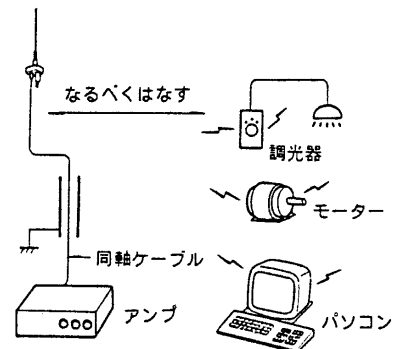
アンテナの接続のしかた

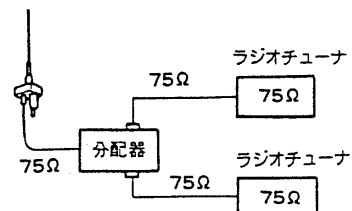
- ラジオチューナユニットを組み込んでご使用のときは受信用の外部アンテナが必要です。
  内部の端子台A-TB-3の10のアンテナ端子にラジオ用アンテナを接続してください。

外部アンテナの設置、配線についてのご注意

良好に受信し、外来ノイズの影響をうけないために下記の事項に注意してください。

①見通しのよいところに設置してください。

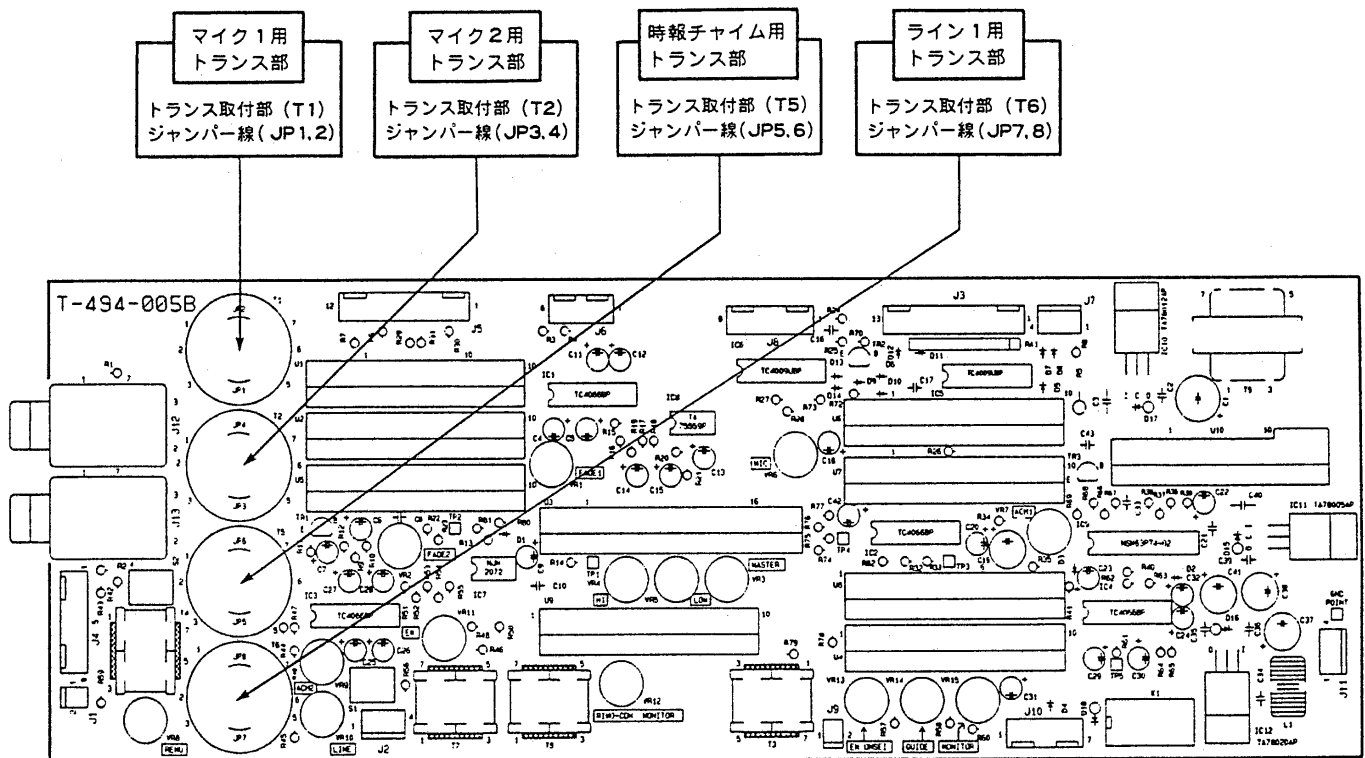
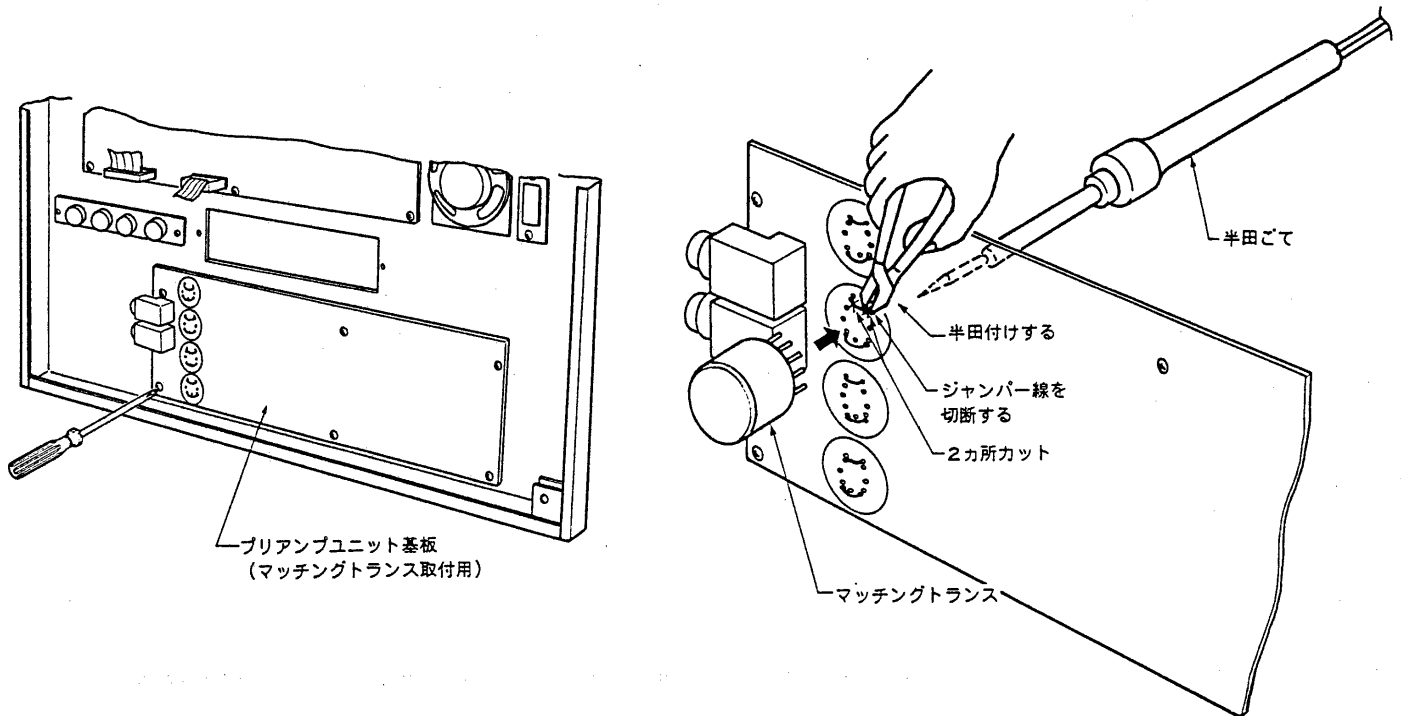
- 壁面に取り付けるときは図のようにエレメントを屋上から出すか、やむを得ず壁面に沿って取りつけるときは壁面より30cm以上離して取りつけてください。（下に向けたり水平にしないでください。）
- まわりに高い建物がある場合は図のように見通しのよい高いところに設置してください。

②水銀灯や街路灯などからはなるべくはなして設置してください。点灯時雑音の入る原因となります。

③アンテナ線は同軸ケーブルを使用し、AC100Vラインとは別配管にしてください。また配管は必ずアースしてください。

④配管からアンプ(ラジオ)までのアンテナケーブルの配線方法について

- アンテナケーブルは調光器ライン、パソコン、モーターなどのノイズ源の近くを通過しないように配線してください。

⑤アンテナ線を分配するときは必ず、分配器を使用してください。

- 分配器はAM.FMの周波数帯域(525～1605KHz, 76～90MHz)で損失の少ないものをご使用ください。

■マイク１、マイク２、時報チャイムおよびライン１入力を平衡入力にするとき

- 本機のマイク１入力、マイク２入力、時報チャイムおよびライン１入力は不平衡形になっています。
  コードを延長させて使用するときは、別売のマッチングトランス（形名：FB-1342）により入力回路を、平衡回路にしてください。
- マッチングトランスの取付方法

①プリアンプユニット基板を止めているねじ６ヶ所をはずします。

②部品面側のジャンパー線２本を２ヵ所基板面より出ないようにニッパー等で切断し、別売のマッチングトランス（形名：FB-1342）を図のように基板に差し込み半田付けをしてください。

プリアンプユニット基板

接続のしかた

■ 内部配置図

パワートランジスタ保護ヒューズ

機　種	容 量
AWH- 600PA	5A
AWH-1200PA	7A
AWH-2400PA	15A

電源ヒューズ

機　種	容 量
AWH- 600PA	3A
AWH-1200PA	4A
AWH-2400PA	7A

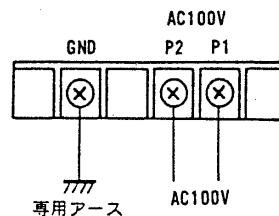
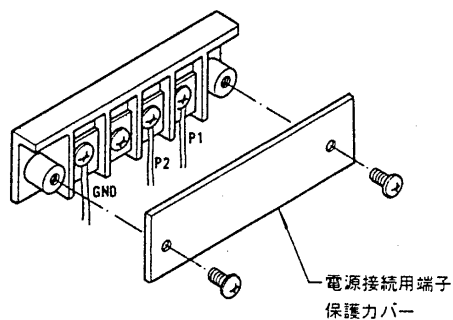
蓄電池保護ヒューズ

機　種	容 量
AWH- 600PA	10A
AWH-1200PA	10A
AWH-2400PA	15A

電力増幅器ユニット
主電源スイッチ
電源入力端子
ヒューズ(0.5A)
電源カットリレー用
電力増幅器ユニット
接続用端子
電源ヒューズ
（制御電源用）
バッテリー
充電電流設定スイッチ
充電回路基板
制御ユニット基板
初期設定
ディップスイッチ
ヒューズ基板
マイク２入力ジャック
マイク１入力ジャック
プリアンプユニット基板
（マッチングトランス取付用）
スピーカ回線保護ヒューズ
非常用蓄電池 接続用コネクター
外線接続用端子（スピーカ線）
外線用接続用端子（制御線）
ヒューズ（非常業務リモコン用）

※本図は、AWH-1020RBとAWH-2400PAを組み合わせた場合の図です。

■ 電源とアースの接続

● 電源接続用端子保護カバーをはずし、電源線を接続します。

ご注意

● 接続の際には、必ず分電盤のスイッチおよび、本機の電源スイッチを「切」にしてください。
● 本機には電源ケーブルは付属させておりません。
● 電源は主盤(分電盤)より専用の開閉器を設けて専用回路(非常用放送設備)として配線してください。ACコンセントから電源をとってはいけません。
● 本機は必ず第三種接地工事以上で接地してください。

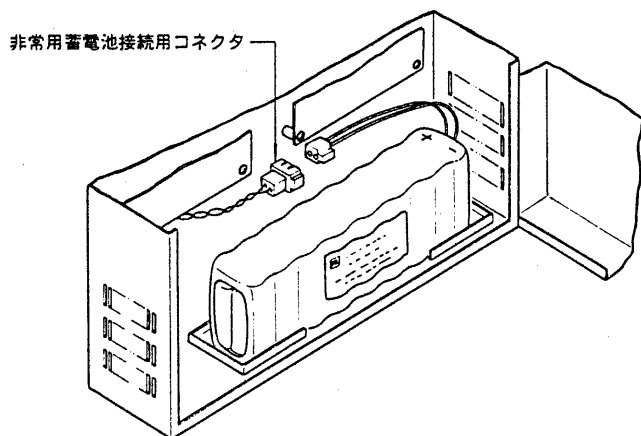
■非常用蓄電池の接続

● お求めの東芝壁掛形非常放送アンプには別売の非常用蓄電池が必要です。電力増幅器ユニットにより適合する非常用蓄電池をお求めください。

電力増幅器ユニット形名		適合非常用蓄電池形名	電 圧	容 量	充電電流
AWH－600PA	(本体単独使用時)	NBT－2000	DC24V	1.65Ah/5HR	50mA以下
	(非常業務リモコン接続時)	NBT－3000	DC24V	3.5 Ah/5HR	117mA以下
AWH－1200PA		NBT－3000	DC24V	3.5 Ah/5HR	117mA以下
AWH－2400PA		NBT－4000	DC24V	6.0 Ah/5HR	166mA以下

● 本体からのコネクタと接続します。

ご注意

● 非常用蓄電池の標準寿命は4年です。非常時に機器を正しく動作させるために交換時期を守ってください。

● 充電装置は自動充電方式になっております。充電は試験放送などで蓄電池を10分程度使用した場合、48時間程度で満充電となります。※1

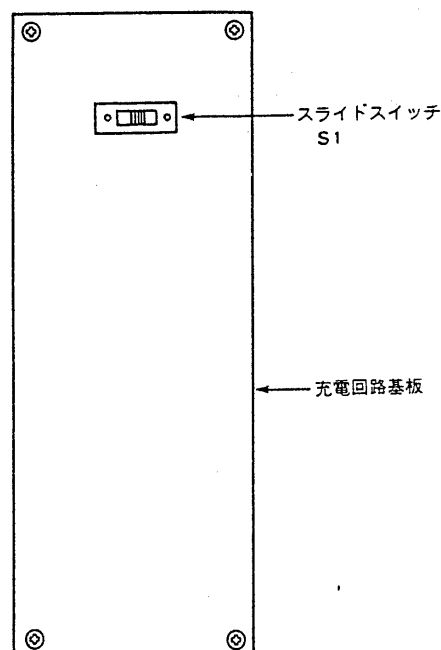
● 蓄電池点検スイッチでチェックしてください。
非常用電源電圧計の指針が24～30V線の目盛の間に振れることを確認してください。
この範囲内に振れないときは、寿命ですのですぐに新品と交換してください。
交換はお近くの工事店または東芝お客様ご相談センターにご依頼ください。

● 続けてチェックする場合はスイッチから一度指を離し約5～6秒たってからもう一度スイッチを押してください。

※1　本機はトリクル充電方式を採用しており常時充電しています。

■蓄電池の充電電流の設定

使用する蓄電池の容量に応じて充電電流を必ず設定してください。
充電回路基板上のスライドスイッチ(S1)(右図参照)で、次のように設定してください。(出荷時はNBT-4000用に設定してあります。)

使用蓄電池	NBT-3000	NBT-4000	NBT-2000
スイッチ設定	⬅ (左)	(中央) (出荷時)	➡ (右)

■スピーカの接続

- 本機はライン電圧100V ハイ・インピーダンススピーカ専用です。ロー・インピーダンススピーカやライン電圧の異なるものは接続できません。
- 消防法では各階別３線式配線（音量調節器を設けない場合は２線式配線）となっています。

●アンプとスピーカ間の延長可能距離

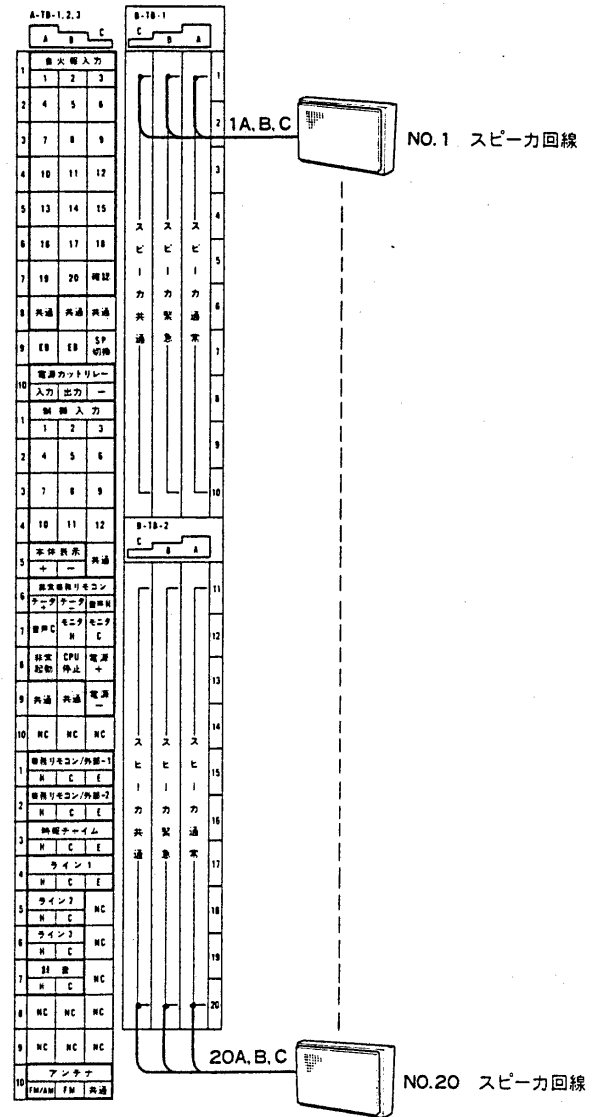
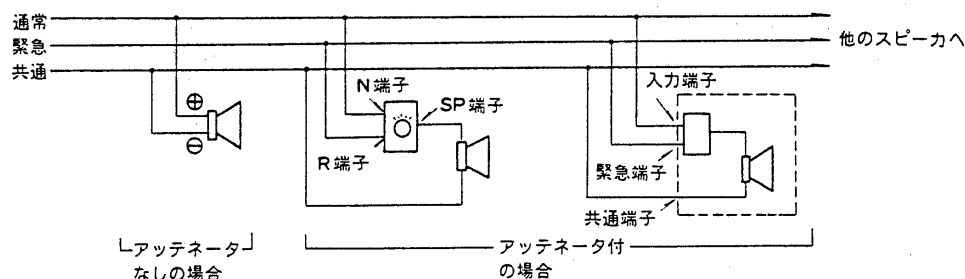
機種 ＼ 線径(mm)	Φ0.9	Φ1.0	Φ1.2	Φ1.6	Φ2.0	Φ2.6
AWH－ 600PA	290 m	360 m	560 m	1 km	1.5 km	2.6 km
AWH－1200PA	145 m	180 m	280 m	500 m	770 m	1.3 km
AWH－2400PA	70 m	90 m	140 m	250 m	380 m	650 m

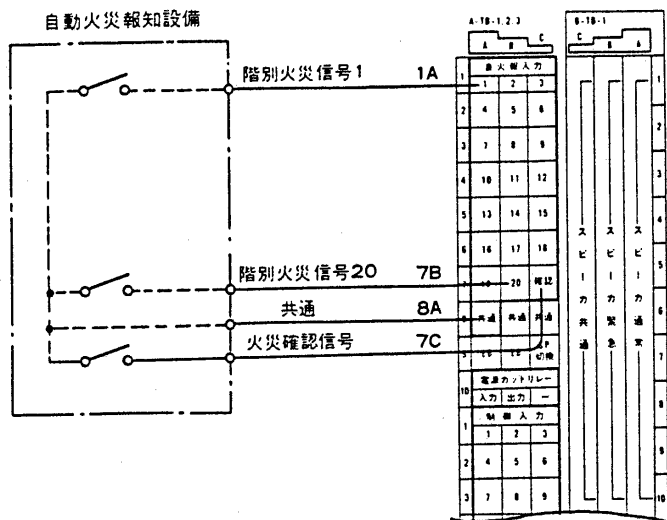
- 線路抵抗(ループ)がアンプの負荷インピーダンスの10%になる距離のめやすです。
- スピーカ回線に使用する電線は耐熱電線等、消防法で定められている基準に適合した電線工事でなくてはいけません。

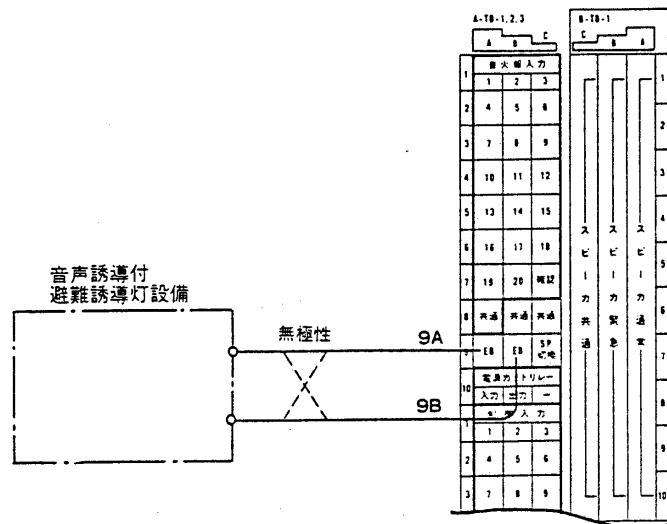
●スピーカ回線の短絡保護用ヒューズとして出荷時0.3Aが取り付けてあります。（このときの１回線あたりのスピーカ容量は最大30Wです。）１回線あたりのスピーカ容量が30Wをこえる場合は下表によりヒューズを交換してください。最大100Wまで可能です。

１回線100Wをこえる場合は２回線以上にわけてください。

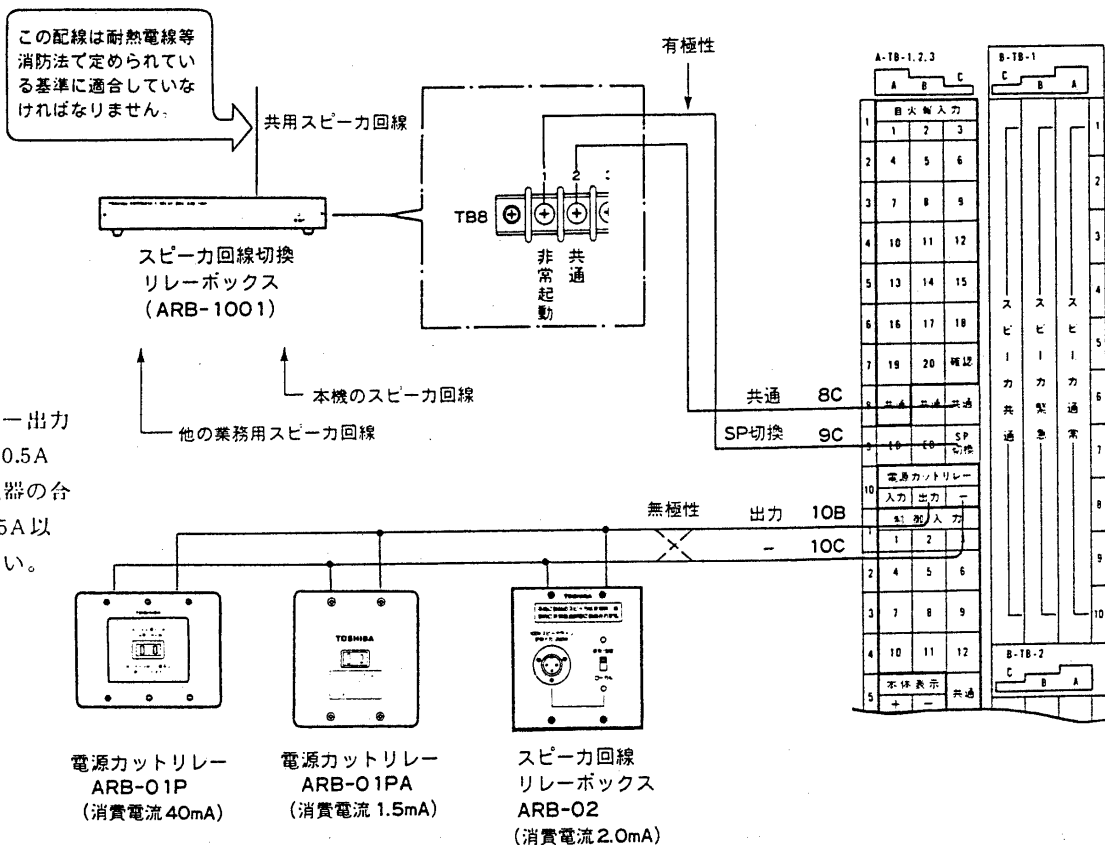
ヒューズ容量	１回線あたりの最大スピーカ容量
0.3A	30W
0.5A	50W
1 A	100W

- スピーカ回線はアッテネータ付の場合は３本、アッテネータなしの場合は２本の配線が回線毎に必要です。
アッテネータ付、アッテネータなしそれぞれの場合のスピーカへの接続方法は下図のとおりです。

■自動火災報知設備との接続

● 自動火災報知設備からの階別火災信号（無電圧メイク接点）、および火災確認信号（無電圧メイク接点）の接続のしかたは、右図のとおりです。

■音声誘導付避難誘導灯設備との接続

● 非常放送設備で音声警報放送中は、音声誘導付避難誘導灯設備の音声誘導放送は、止めなければなりません。このため非常放送設備のＥＢ端子を音声誘導付避難誘導灯設備に右図のように接続してください。

■電源カットリレー、スピーカ切換ボックスとの接続

● 非常放送時にローカルアンプの電源を断(カット)する電源カットリレーおよびスピーカを業務用と共用し非常放送時にスピーカ回線を非常放送側に切りかえるスピーカ回線切換リレーボックスは下図のように接続してください。

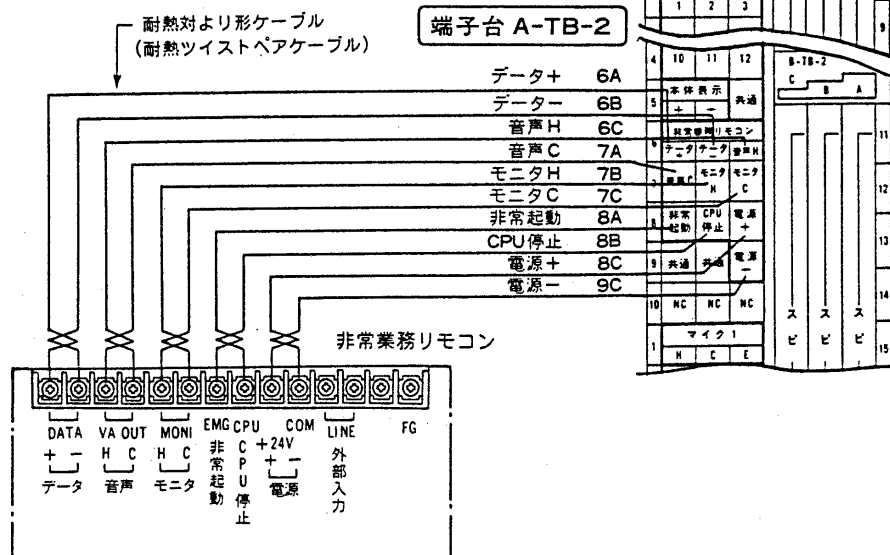
ご注意

電源カットリレー出力の電流容量は、0.5Aですので接続機器の合計消費電流を0.5A以下としてください。

■非常業務リモコンとの接続

- 非常業務リモコンは、最大2台まで接続できます。
- 接続可能な非常業務リモコンは、ARF-1000RBシリーズのみです。

ご注意

下記シリーズの非常業務リモコン接続はできません。
ARF-1000Rシリーズ
ARF-1001Rシリーズ
ARF-1002Rシリーズ
ARF-1000RAシリーズ
ARF-1003Rシリーズ

- 2台目の非常業務リモコンも同様に接続します。

- 配線は必ず**耐熱対より形ケーブル(耐熱形ツイストペアケーブル)**をご使用ください。
  (2本ずつが撚ってある耐熱ケーブル)
- ツイストペアケーブルを使用しないと誤動作や、音声への伝達ノイズとびこみの原因となりますので必ずツイストペアケーブルを使用してください。

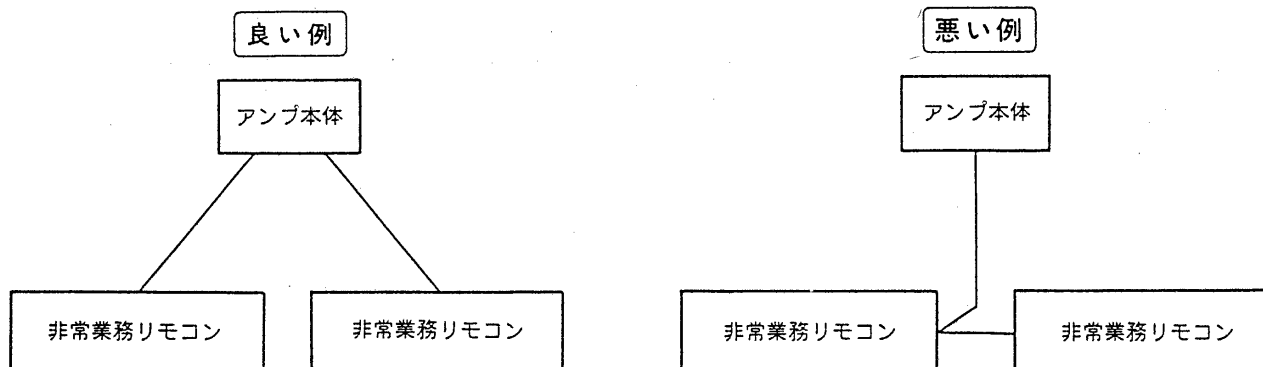
- 許容線路抵抗は下表のとおりです。線路抵抗値が許容線路抵抗以内になるように線径を選んでください。
- 電源線の線路抵抗がオーバーする場合には6対以上(4対は制御用)の電線として2対以上をパラ接続して許容線路抵抗値以下になるようにしてください。

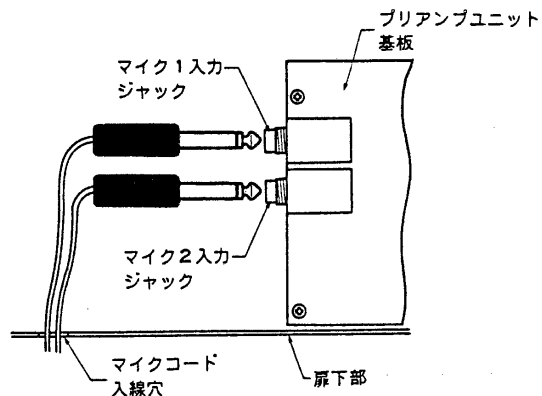
許容線路抵抗値

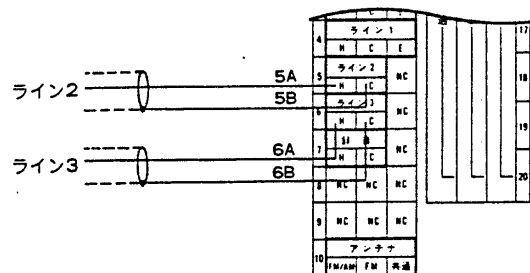
電源線(1対)	制御線(4対)
3Ω (1本あたり1.5Ω)	50Ω (1本あたり25Ω)

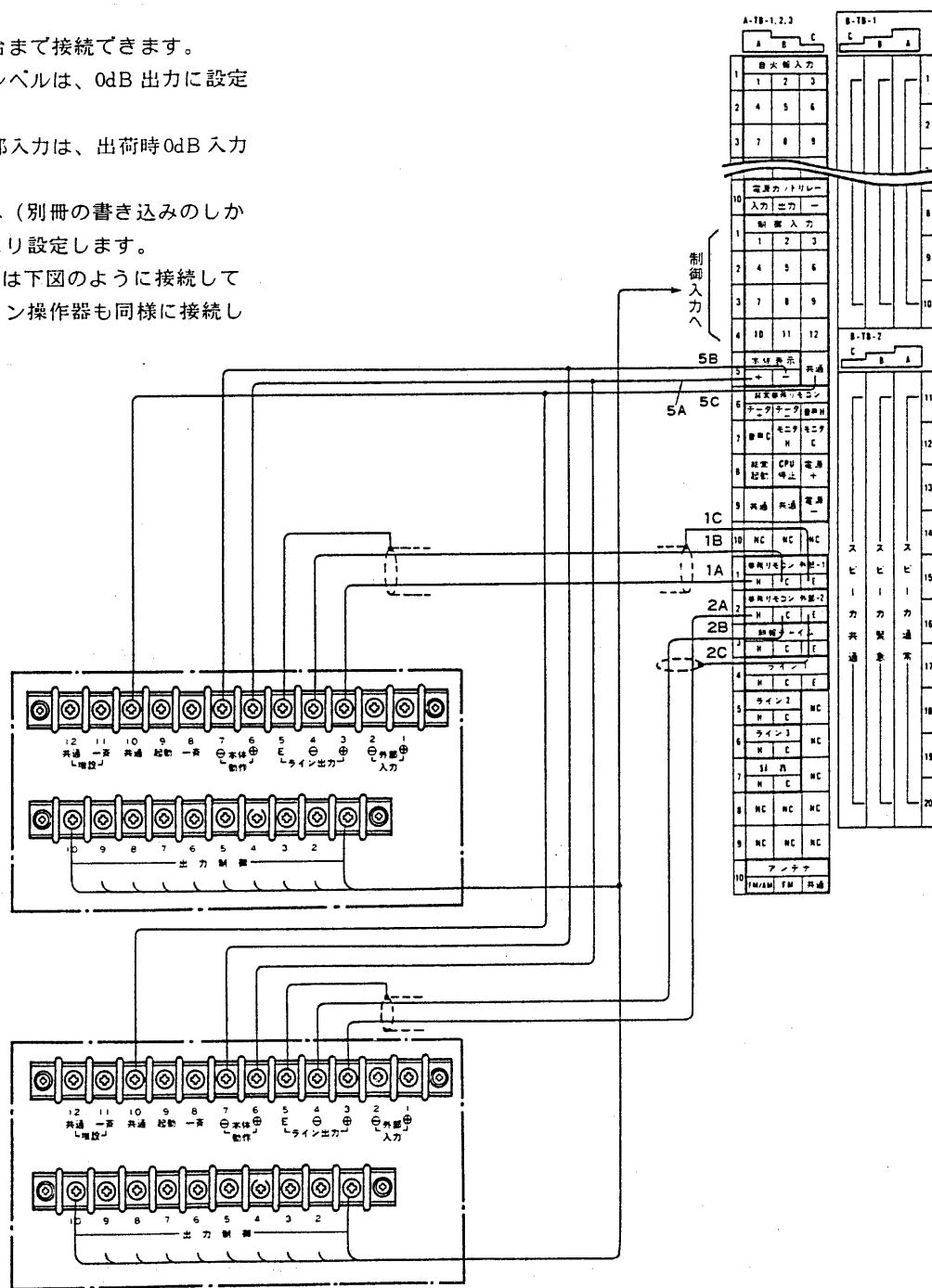
耐熱対より形ケーブルの線路抵抗値(1線あたり)

線 経	抵抗値
Φ0.65mm	約58Ω/km
Φ0.9mm	約30Ω/km
Φ1.2mm	約17Ω/km
Φ1.6mm	約10Ω/km

- 非常業務リモコンを2台接続するときは、リモコンで渡り配線はせずに必ず本体で分岐し、各リモコンへ配線するようにしてください。

■マイク１、２入力への接続

- マイク１、２入力およびライン２、３入力は、不平衡形になっています。
- マイク１、２入力は、扉内部下部のプリアンプユニット基板上のマイク入力ジャックにプラグを接続してください。（マイクは最大２本接続できます。）
- マイクコードを約10m以上伸ばして使用する場合は、マッチングトランス（別売、形名：FB1342）を使用し、入力回路を平衡回路に変更してください。
（マッチングトランスの取付は、11ページをご参照ください。）
- ライン２、３入力は、端子台に接続してください。

ご注意

ライン２、３入力は平衡入力に変更することはできません。

■業務リモコンとの接続

- 業務リモコンは、最大２台まで接続できます。
- 業務リモコンの音声出力レベルは、0dB出力に設定してください。
（業務リモコン入力／外部入力は、出荷時0dB入力に設定してあります。）
- 放送先の選択は、書き込み（別冊の書き込みのしかたをご参照ください。）により設定します。
- リモコン操作器AAR-1000は下図のように接続してください。その他のリモコン操作器も同様に接続してください。

■時報チャイムとの接続

- 時報チャイムの音声入力は1回路です。
- 放送先は書き込みにより設定します。（別冊の書き込みのしかたをご参照ください。）
- 下図のように接続してください。

（エレクトロチャイムACH-101の場合）

デジタルタイマー（AMT-3000）

エレクトロチャイム（ACH-101）

ACコンセントへ

他のタイマー、チャイムをご使用の場合も同様に接続してください。

4B

9A

3A

3B, C

（4曲エレクトロチャイムACH-401の場合）

デジタルタイマー（AMT-3000）

4曲エレクトロチャイム（ACH-401）

AC 100V

AC 100V

他のタイマー、チャイムをご使用の場合も同様に接続してください。

（ミュージックタイマ AMU-2002の場合）

AMU-2002
（AMU-2001はつなげません。）

AC 100V

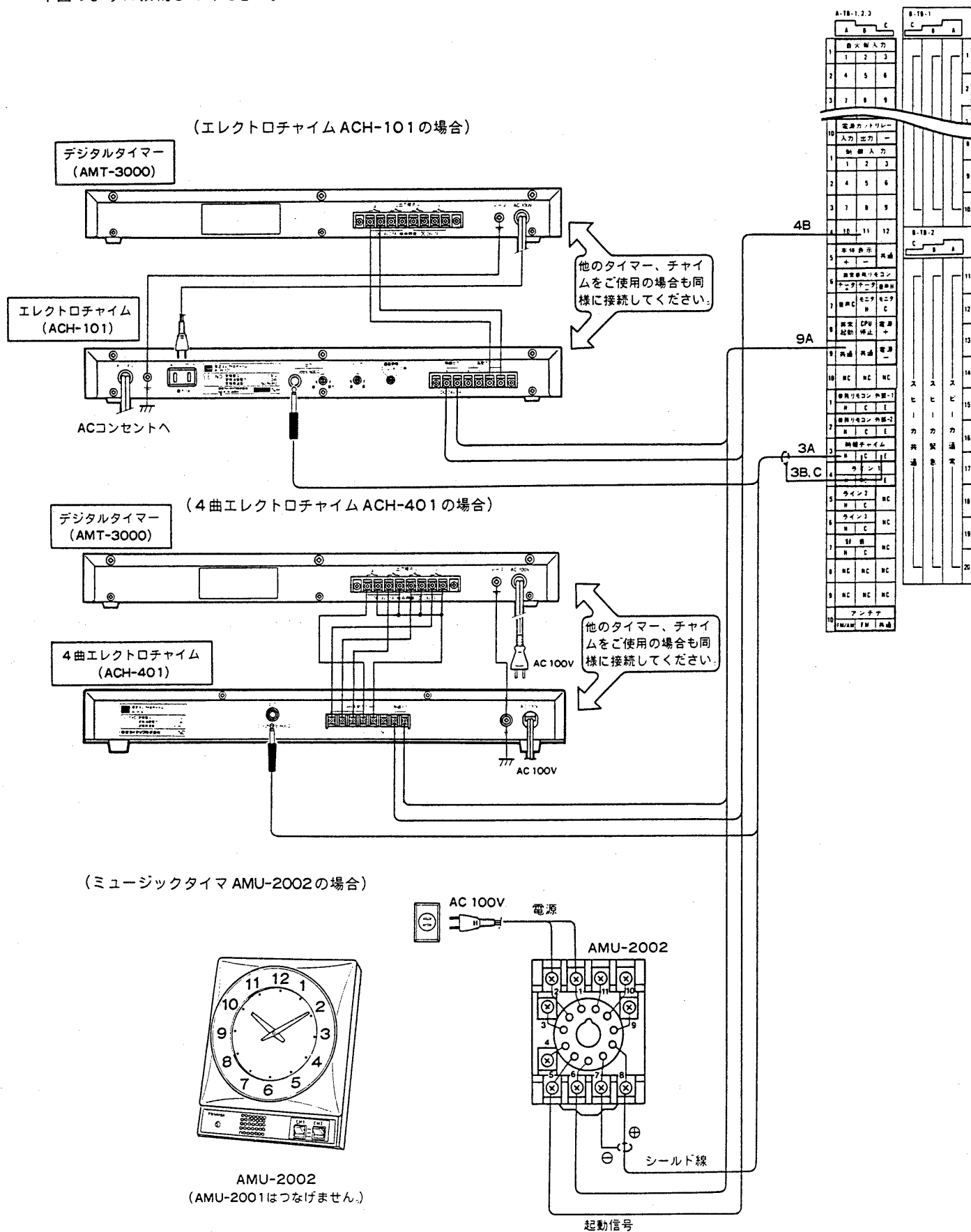
電源

AMU-2002

シールド線

起動信号

ご注意

接続する外部機器の取扱説明書もあわせてお読みください。

■ライン１入力を使ったBGM装置との接続

- ライン１入力を使用してBGMとして常時音楽等を放送する場合は、下図のように接続してください。
- 放送先は書き込みにより設定します。（別冊の書き込みのしかたをご参照ください。）

デジタルタイマー（AMT-3000）

BGM演奏装置（BGM-8000）

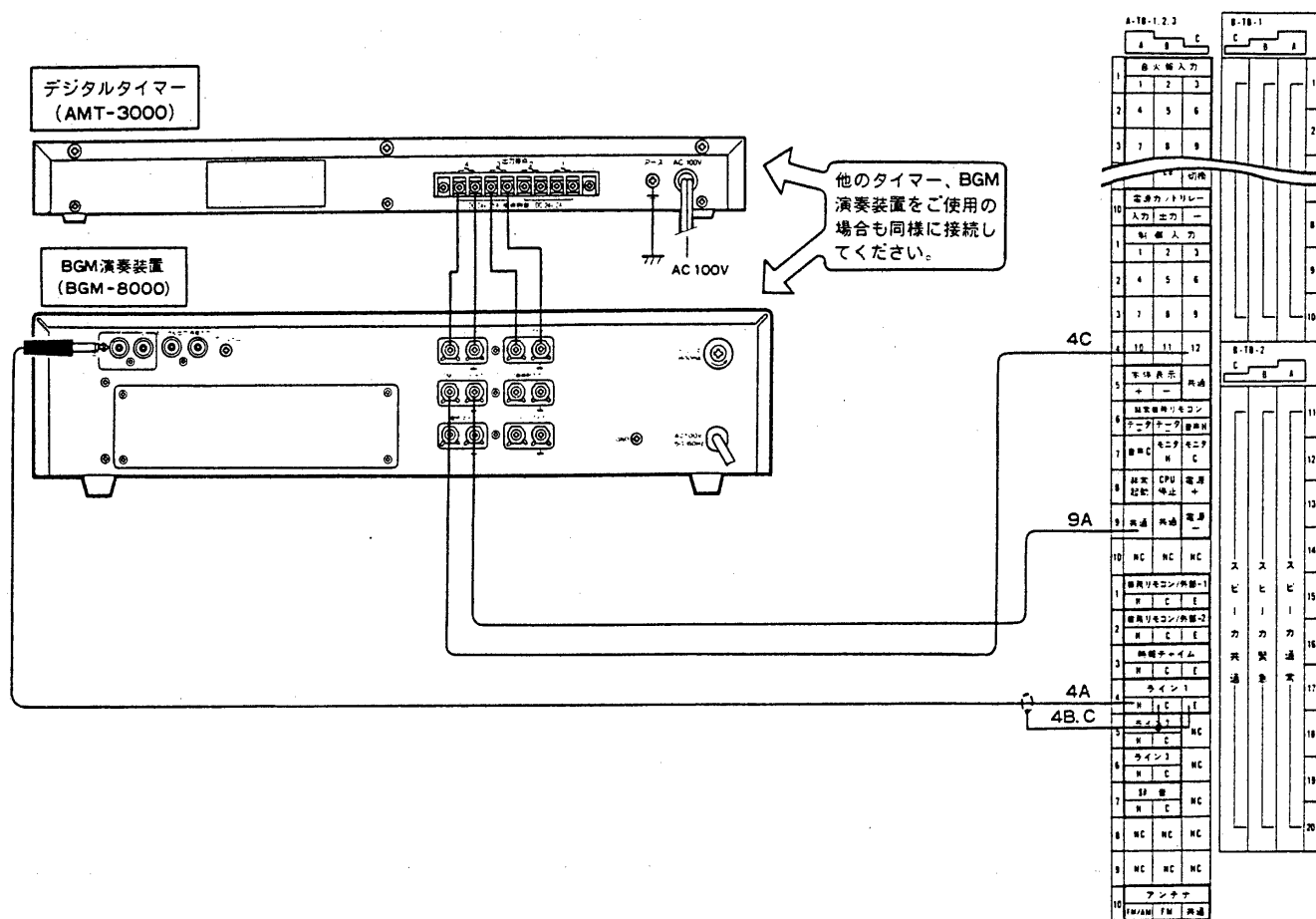
AC 100V

他のタイマー、BGM演奏装置をご使用の場合も同様に接続してください。

4C

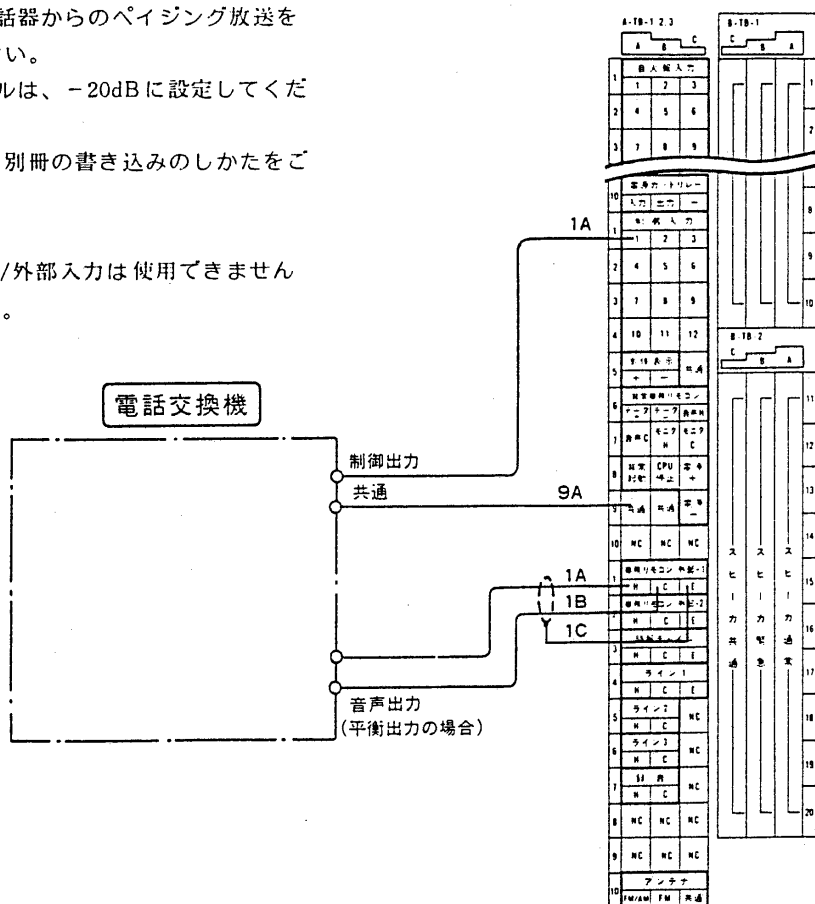
9A

4A

4B. C

■業務リモコン/外部入力を使ったペイジング放送

- 業務リモコン/外部入力を使用して、電話器からのペイジング放送をする場合は下図のように接続してください。
- 業務リモコン/外部入力の音声入力レベルは、－20dBに設定してください。（24ページをご参照ください。）
- 放送先は書き込みにより設定します。（別冊の書き込みのしかたをご参照ください。）

ご注意

業務リモコン接続時は、業務リモコン/外部入力は使用できませんのでライン１入力を使用してください。

初期設定

■蓄電池の充電電流の設定

➡ 13ページの蓄電池の充電電流の設定をご参照ください。

■非常業務リモコンの接続台数の設定

● 非常業務リモコンを接続する場合は、その台数により、各スイッチの設定が必要となります。

制御ユニット基板の初期設定ディップスイッチの設定

➡ 下図①をご参照ください。

プリアンプユニット基板のスイッチ設定

➡ 24ページを参照ください。

■発報連動停止スイッチの設定

● 感知器からの起動時の連動条件を設定します。

➡ 4ページを参照ください。

■発報放送／火災放送のスイッチ

● 発信機・非常電話起動または、手動起動時に、発報放送後、火災放送に移るか、発報放送なしに火災放送に移るかの設定が必要となります。

制御ユニット基板の初期設定ディップスイッチで設定します。

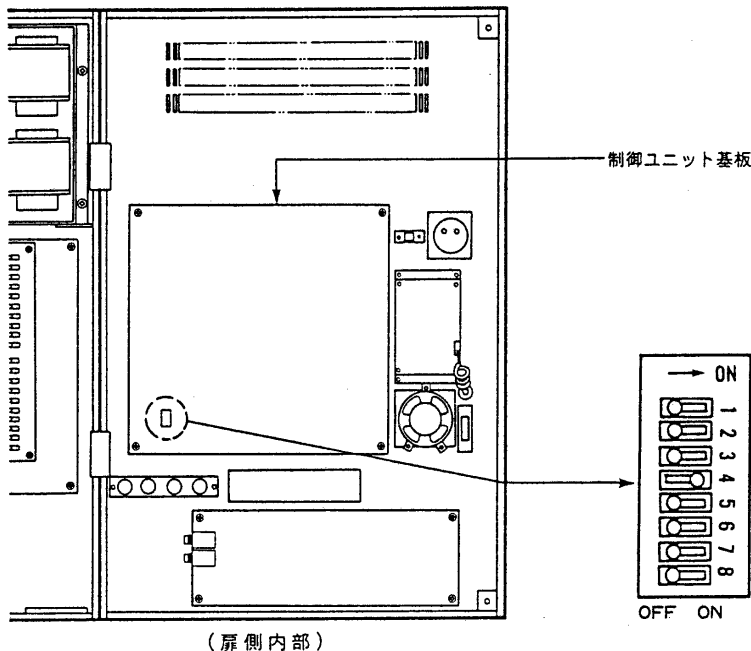
➡ 下図②をご参照ください。

■警報ブザー音の設定

● リモコン通信異常および蓄電池異常時の警報ブザー音の鳴り時間を連続または、一定時間(２分)鳴動後自動停止のどちらかに設定できます。

制御ユニット基板の初期設定ディップスイッチで設定します。

➡ 下図③をご参照ください。

(扉側内部)

① リモコン台数の設定
スイッチ５、６で設定

スイッチ	5	6
リモコンなし	ＯＦＦ	ＯＦＦ
リモコン１台	ＯＮ	ＯＦＦ
リモコン２台	ＯＦＦ	ＯＮ

② 発報放送／火災放送の設定
スイッチ１で設定

区分	内容	設定
発報	(発報放送後 火災放送)	ＯＦＦ
火災	(発報放送なしに 火災放送)	ＯＮ

③ 警報ブザー音の設定
スイッチ２で設定

連　続	ＯＦＦ
一定(２分)	ＯＮ

取付、接続が完了したら

●取付、接続が完了したら、次の手順で電源を投入し、動作の確認を行なってください。

① 初期設定を行なってください。 ……20ページ参照

⬇

② 電力増幅器ユニットの主電源端子にAC 100Vを供給してください。

⬇

③ マイク扉内の 書き込み キーと 0 キーを押しながら
電力増幅器ユニットの主電源スイッチを「入」にしてください。(初期リセット)

⬇

……12ページ参照

●主電源表示灯⑫と充電中表示灯⑬が点灯します。

●主電源／非常電源電圧計が主電源の電圧を表示します。
(－10%～＋10%のほぼ中央を指示します。)

●異常表示灯が点灯しましたら、39ページに従って、チェックしてください。

④ 非常放送のしかた、業務放送のしかた(25～37ページ参照)に従って動作確認を行なってください。

⬇

出荷時は次のように初期設定されています。

(1) 非常放送

●手動による非常放送は階別制御方式、自火報連動による非常放送は直上階方式でいずれも1回線を1階として制御します。発報放送および火災放送メッセージには階の文節は入っていません。
発報放送から火災放送に移るタイマーは、2分に設定されています。

(2) 業務放送

●非常業務兼用リモコンからの制御は本体と同じ1：1に対応します。

●業務放送の優先は、後取り優先に設定されています。

●ブロックスイッチ1～5にはNO.1～NO.5回線が1：1で割りあてられています。

●制御入力の設定は、下表のように初期設定されています。

制御入力	音声入力	放送先回線番号	放送モード
1	業務リモコン	1	通常モード
2	〃	2	〃
3	〃	3	〃
4	〃	4	〃
5	〃	5	〃
6	〃	6	〃
7	〃	7	〃
8	〃	8	〃
9	〃	9	〃
10	〃	10	〃
11	時報チャイム	一斉放送	緊急モード
12	ライン1	一斉放送	通常モード

⑤ ご使用に合わせて設定、変更を行なってください。 ……"書き込みのしかた"(別冊)に従って書き込みをします。

⬇

設定、変更には次のような内容があります。

●発報放送、火災放送メッセージの階分節の設定

●回線をいくつかまとめて非常の1回線にする場合の設定

●自火報連動時の出火階回線と連動階回線の設定

●ブロックスイッチの設定

●各種制御入力時の制御内容の設定あるいは変更

●優先設定の変更

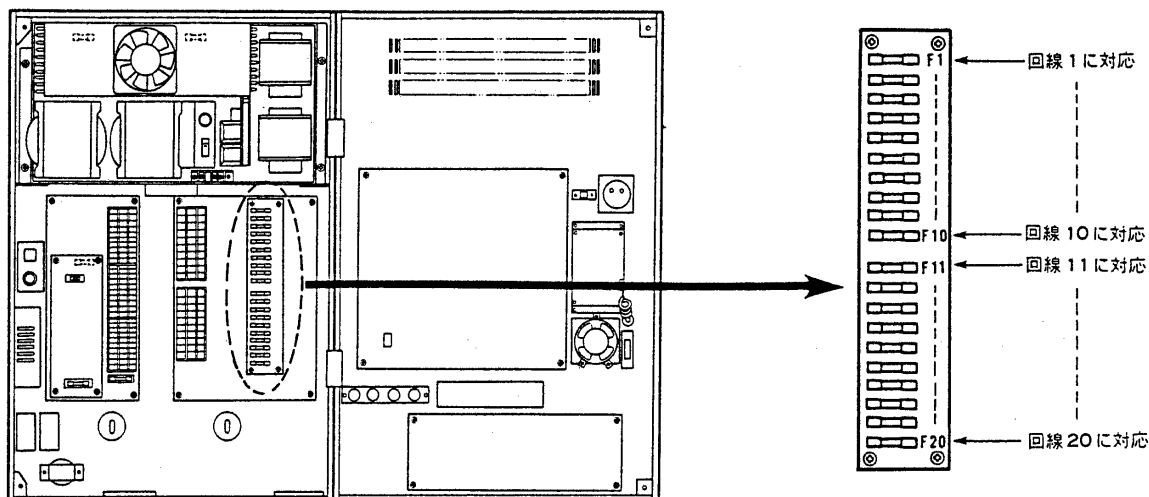
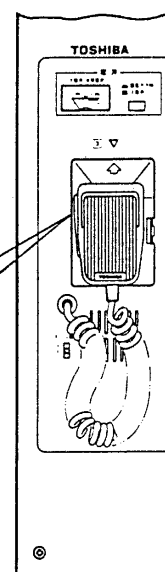
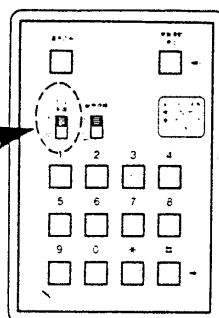
⑥ 書き込みが終ったら、書き込み内容に間違いがないか動作確認をしてください。

⑦ 非常業務リモコンをご使用の場合、リモコンからの動作確認を行なってください。

スピーカ回線保護ヒューズ溶断時の処置のしかた

- スピーカ回線が短絡すると保護ヒューズが溶断します。
  スピーカ回線保護ヒューズが溶断すると階別作動表示灯が点滅します。この場合は次の手順にて処置してください。

①機器は放送復旧状態にしてください。

②ヒューズ基板上にスピーカ回線保護ヒューズがありますので、階別作動表示灯が点滅している回線の溶断したヒューズを新品と交換してください。

③前面パネルのマイク扉をあけ内部のコンピュータ制御スイッチをいったん「切」にしたあと再度「入」にしてください。

④正常動作に復帰したことを機器を動作させて確認してください。

調節のしかた

プリアンプユニット基板上の半固定ボリュームおよびスイッチにより、各種の調節ができます。
（24ページをご参照ください。）

■業務リモコン接続台数の設定

業務リモコンを２台接続する場合は、リモコン台数設定スイッチＳ１を２台用に設定してください。

■業務リモコン／外部入力レベルの切換

業務リモコン／外部入力レベルは、出荷時0dBに設定されていますので、－20dBで使用する場合は、レベル設定スイッチを－20dBに設定してください。

■各音声入力レベルの調整

マイク入力、時報チャイム入力等、各入力の音量レベルを半固定ボリュームで調整できます。
入力が大きすぎる場合は、このボリュームを調整してください。

- 非常業務兼用マイクおよび非常業務兼用リモコンの音量も調整できますが、これらの音量は出荷時、定格（AC100V）でるよう調整されています。

これらの音量を調整する場合(特に小さくて大きくする場合)は、いま一度下記の事項の点検を行ってください。

①スピーカが過負荷になっていませんか……スピーカのワットの合計値はアンプの出力(ワット)合計値以下でなければなりません。

②スピーカアッテネータが正しく選定、接続されていますか……使用スピーカに適合したアッテネータが必要です。誤接続されると業務放送も影響をうけます。

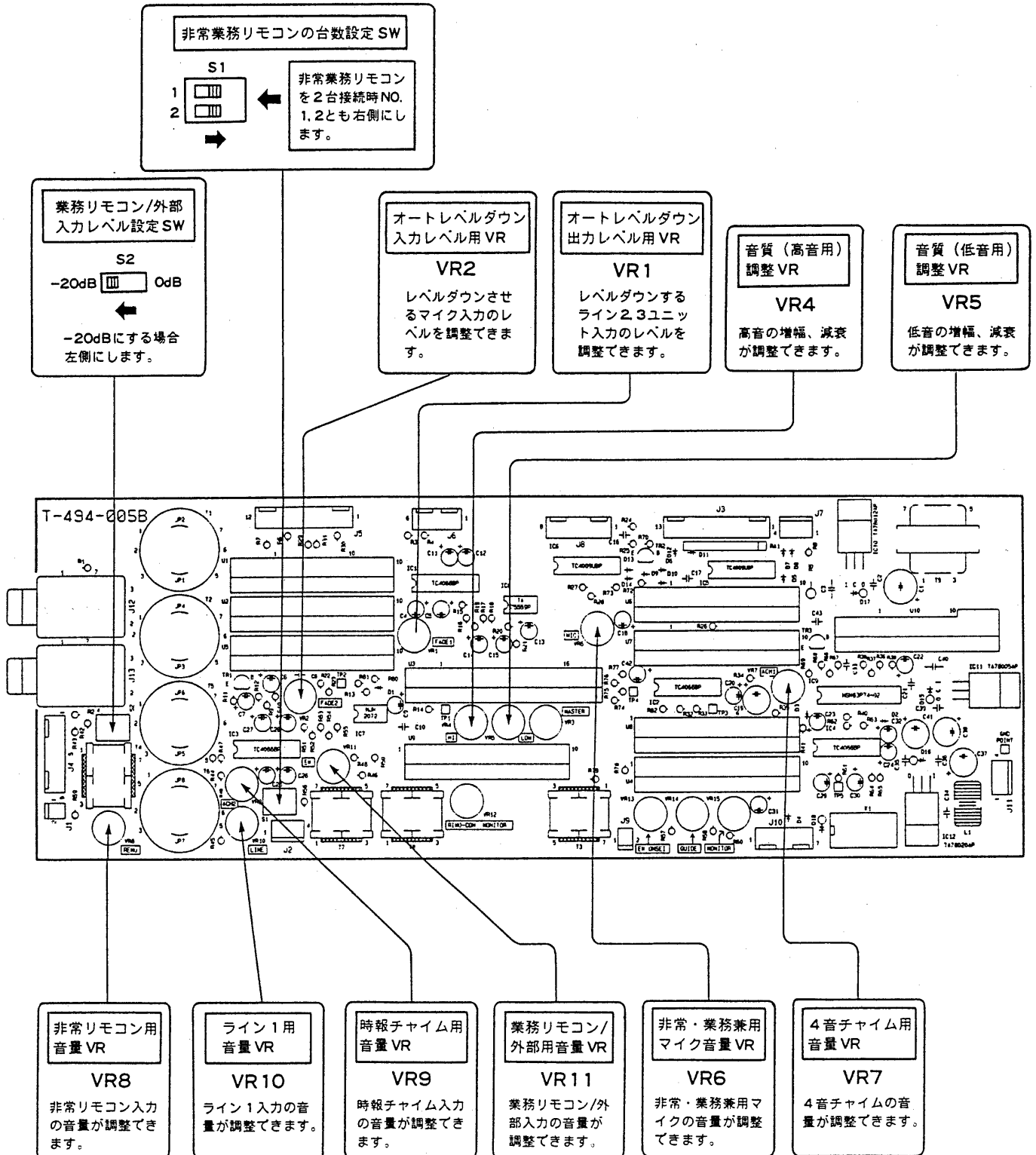
■音質の調整

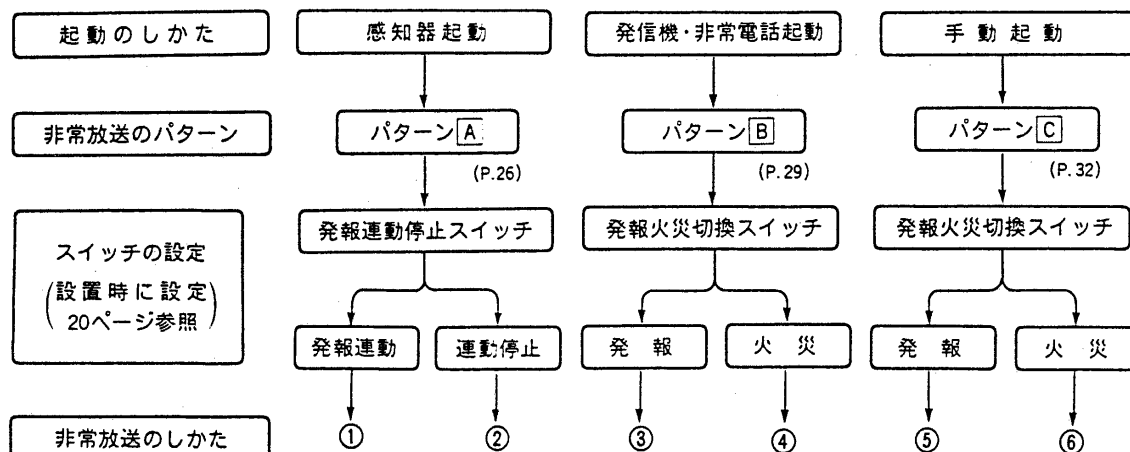
音質を調整したい場合は、低音用、高音用調整半固定ボリュームで調整してください。

■オートレベルダウン機能の調整

①本体マイク、マイク１、２の音声入力によるオートレベルダウン（ライン２、３および組み込みユニットの各放送レベルがダウンする。）機能が働いていない場合は、オートレベルダウン入力レベル調整を半固定ボリュームで行なってください。

②オートレベルダウンする（ライン２、３および組み込みユニットの放送）減衰量を調整したい場合は、オートレベルダウン出力レベル調整半固定ボリュームで調整してください。

プリアンプユニット基板 調整VR、SW配置図

非常放送のしかた

- 本非常用放送設備は、火災発生時に自火報設備等と連動して、音声合成による音声警報(メッセージ・シグナル音)を自動的に放送します。
  - 起動のしかたおよびスイッチ設定により、放送のしかたが異なり、次のようになります。

①感知器起動(発報連動の場合)……………………………(p.27 参照)
②感知器起動(発報連動停止の場合)……………………………(p.28 参照)
③発信機・非常電話起動(発報放送ありの場合)……………………………(p.30 参照)
④発信機・非常電話起動(発報放送なしの場合)……………………………(p.31 参照)
⑤手動起動(発報放送ありの場合)……………………………(p.33 参照)
⑥手動起動(発報放送なしの場合)……………………………(p.34 参照)

- 音声警報は、次の3種類があります。

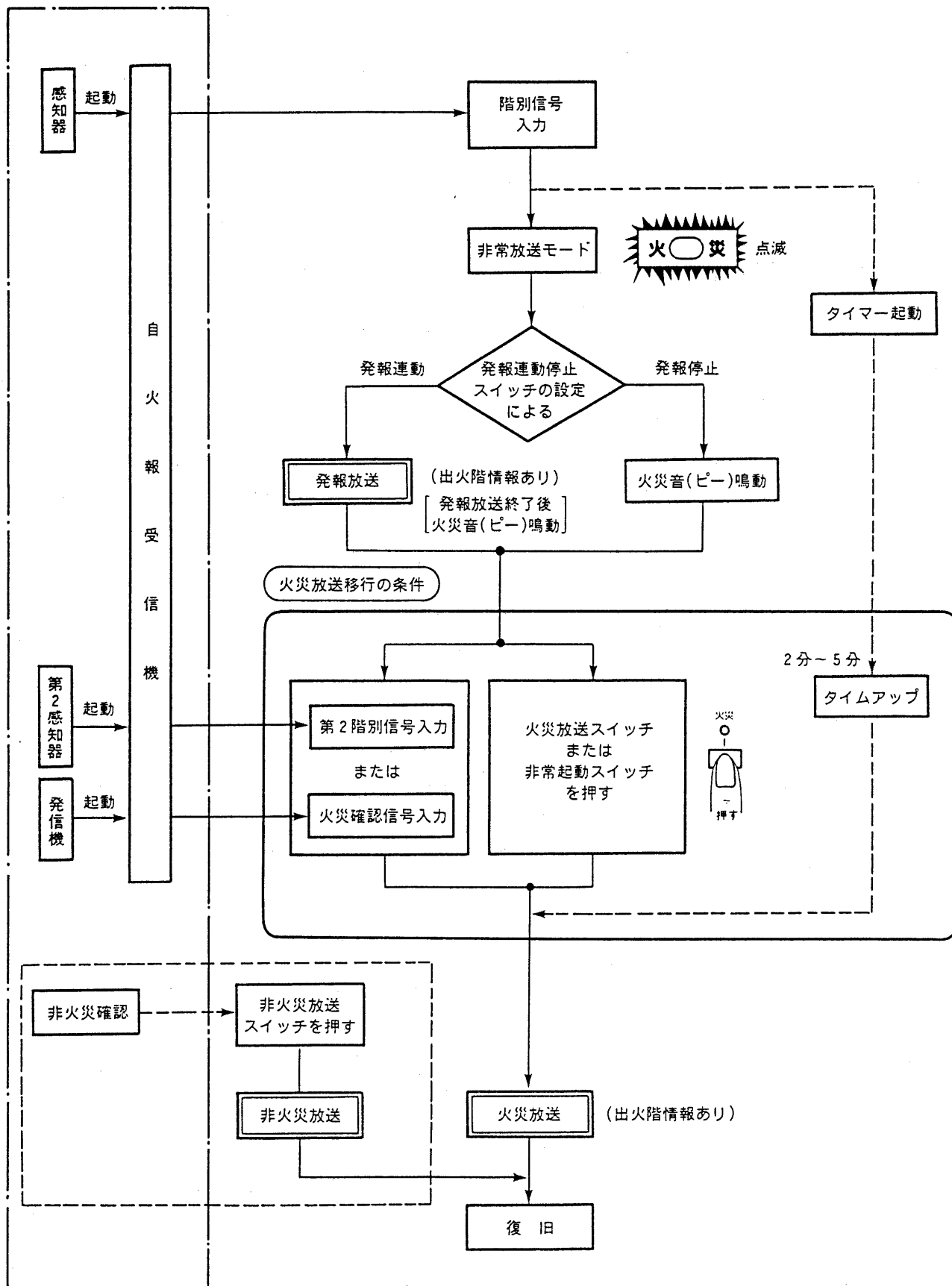
発報放送	火災放送	非火災放送
ピンポン　ピンポン　ピンポン 「ただいま○階の火災感知器が作動しました。 係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」 Attention please. A fire alarm has activated on the *th floor. We are checking now. Please wait for the next announcement. ………2回くり返し	ピンポン　ピンポン　ピンポン 「火事です。火事です。 ○階で火災が発生しました。 落ち着いて避難してください。」 Attention please. There is a fire on the *th floor. Please proceed to an emergency exit and evacuate the building in a calm manner. ビュー　ビュー　ビュー ………連続くり返し	ピンポン　ピンポン　ピンポン 「さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。 ご安心ください。」 Attention please. The alarm reported earlier was not caused by a fire. We are very sorry for the disturdance. ………2回くり返し

ご注意 英文あり、なしは、書き込みにより設定できます。(出荷時は英文なしです。)
(英文ありに設定変更する場合は別冊の"書き込みのしかた"をご参照ください。)

- 非常放送中の動作の注意点
  1. マイク放送は、優先して、いつでもできます。
  2. 火災放送は、次の操作により停止できます。
     - マイクのトークスイッチを「入」にする。(放送階選択されたままとなります。)
     - 放送復旧スイッチを押す。　(放送階が全て解除されます。)
  3. 各音声警報の放送中の各操作後の動作は、次のとおりとなります。

動作 ＼ 放送	発報放送	火災放送	非火災放送
放送中のマイク放送後の動作	無音	「ビュー　ビュー　ビュー」の連続くり返し	無音
放送中の放送復旧後、再選択後の動作	無音	「ビュー　ビュー　ビュー」の連続くり返し	無音

非常放送のパターン A　感知器起動

- 初めに感知器が起動して、自火報受信機から階別信号が入力した場合の動作パターンです。
- 階別信号が入力されると非常放送モードとなり、タイマーがスタートし、発報連動停止スイッチの設定により、次の2つのモードに分かれます。
  - 発報連動…発報放送を自動的に放送（発報放送終了後モニタスピーカから火災音「ピー」と音声ガイドが鳴動）
  - 発報停止…発報放送なし　（モニタスピーカから火災音「ピー」と音声ガイドが鳴動）
- 火災放送移行の条件(下記)により、火災放送に移ります。
- 非火災放送は、非火災放送スイッチを押すことにより、いつでもすることができます。
- マイク放送は、発報放送、火災放送中でも常に優先して、放送できます。

非常放送のしかた ①

感知器起動 （発報連動の場合） 発報放送あり

火災発生

階別信号入力

1 **発報放送** されます。

自動的に出火階、連動階に放送されます。
- 火災灯が点滅。

火〇災

- 出火階表示灯、階別作動表示灯および放送階選択指示灯が点灯。

連動階
出火階

- 火災放送移行のタイマースタート（タイマー動作中は火災灯点滅）
- マイク指示灯および音声警報指示灯が点滅。

発報放送 が２回くり返し放送されます。
その後、ブザー音と音声ガイドが交互にモニタスピーカから鳴ります。

ブザー音　ピー…………………………

音声ガイド　火災を確認せよ。火災のときは、火災スイッチを押せ。

2 **火災を確認します。**

注意
- 次の条件により火災放送が自動的に放送されます。
  - 発信機、非常電話の起動
  - 第２感知器の起動
  - タイマーのタイムアップ

火災時

3 **火災スイッチを押します。**

非火災時

3 **非火災スイッチを押します。**

非火災放送 がが２回放送されます。その後は無音となります。

火災放送 がくり返し放送されます。

4 **マイクで放送します。**

トークスイッチを押しながらマイク放送します。

マイク放送終了後「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。

5 **他の階に放送します。**

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。

鎮火

6 **自火報を復旧させます。**

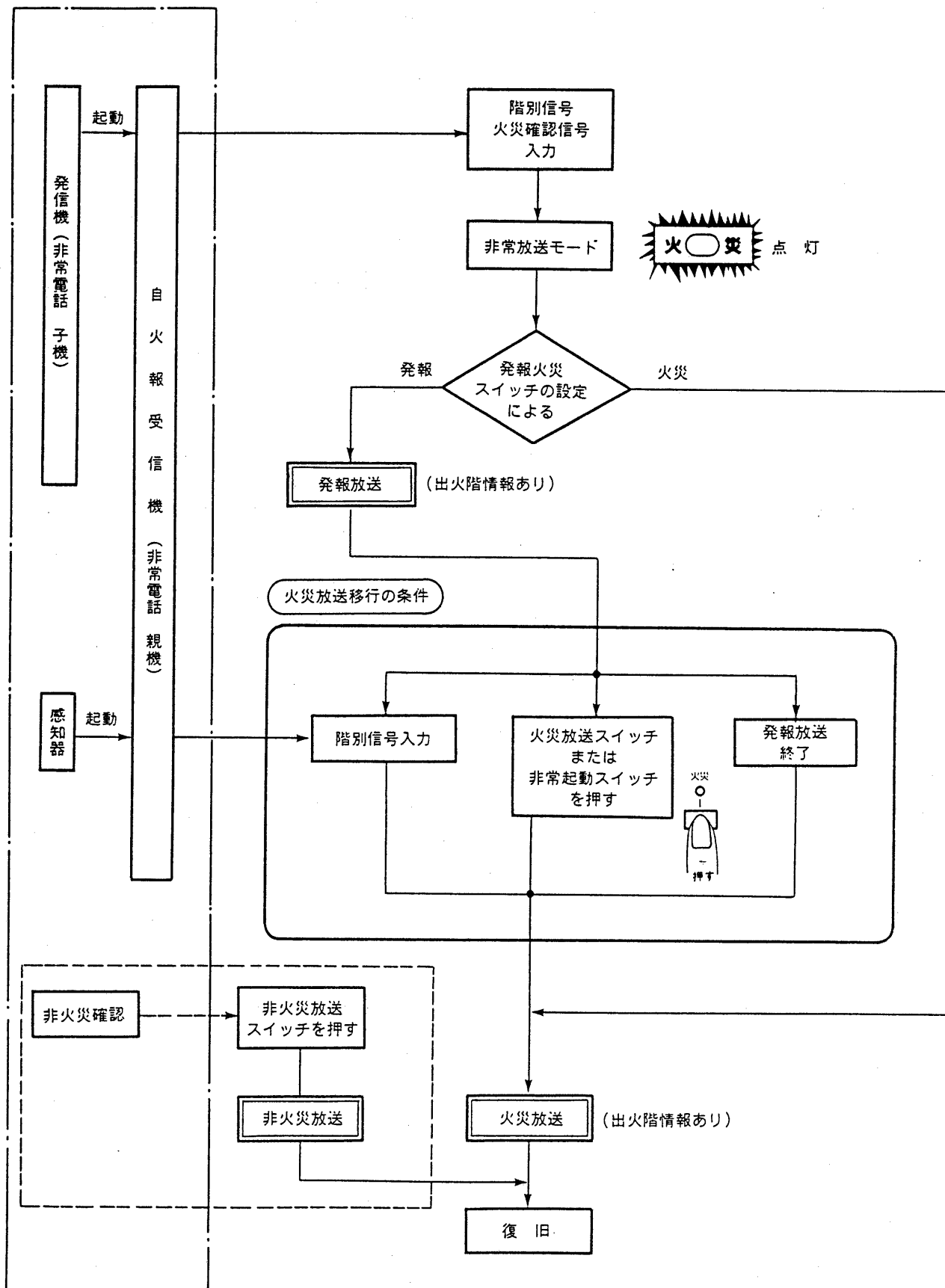
7 **非常復旧スイッチを押します。**

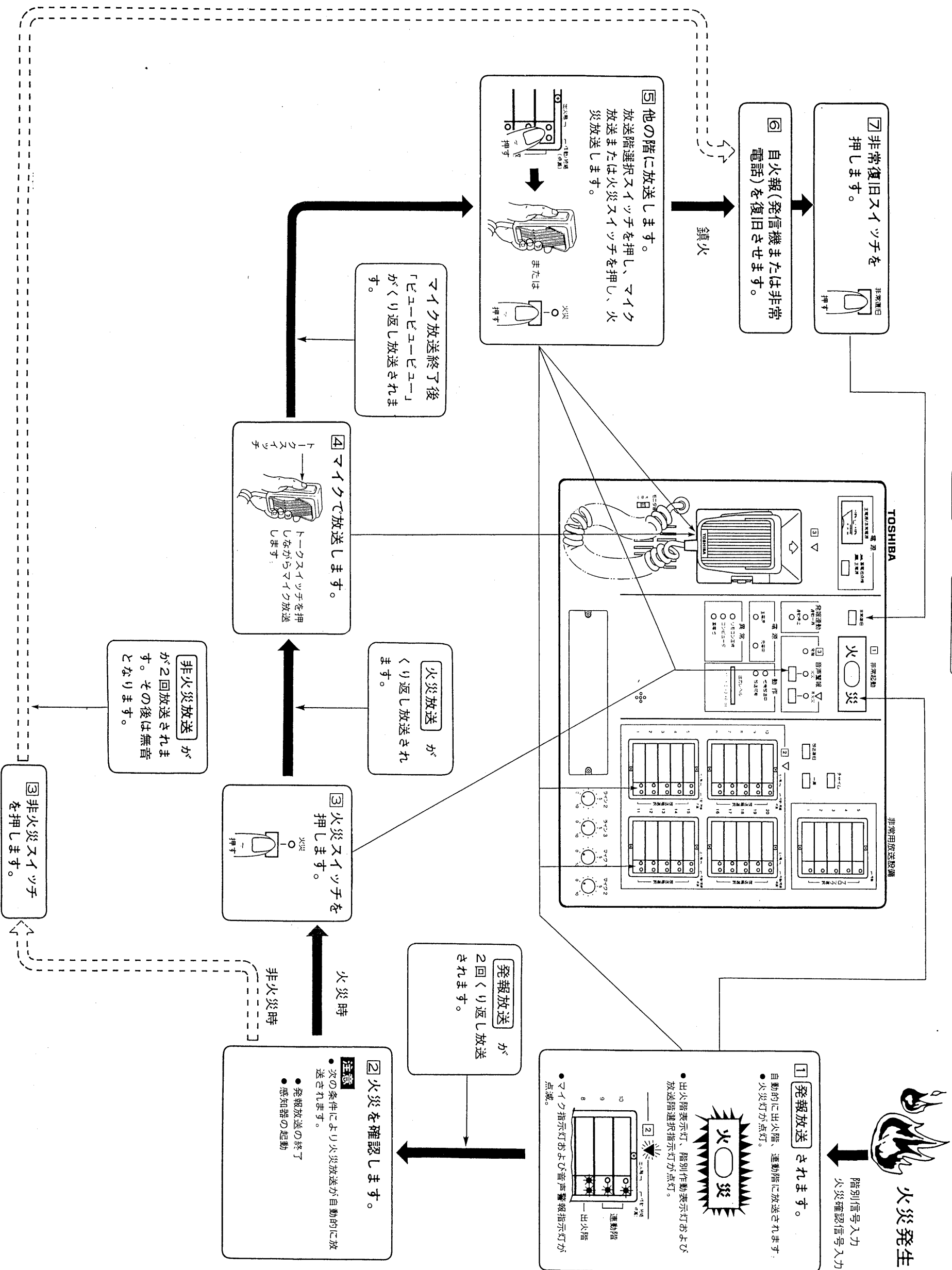
発報連動停止表示灯 消灯

非常放送のしかた ②

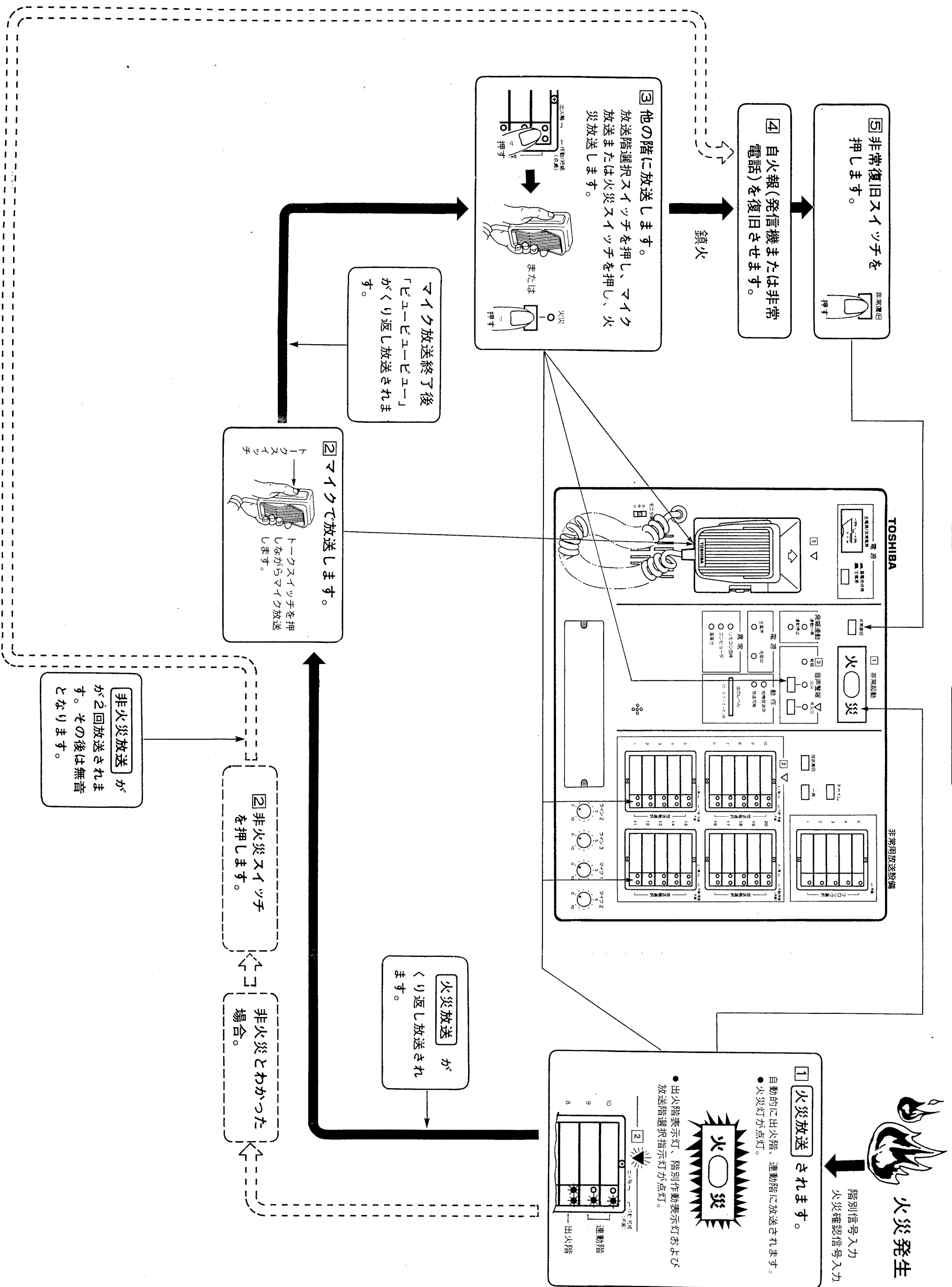
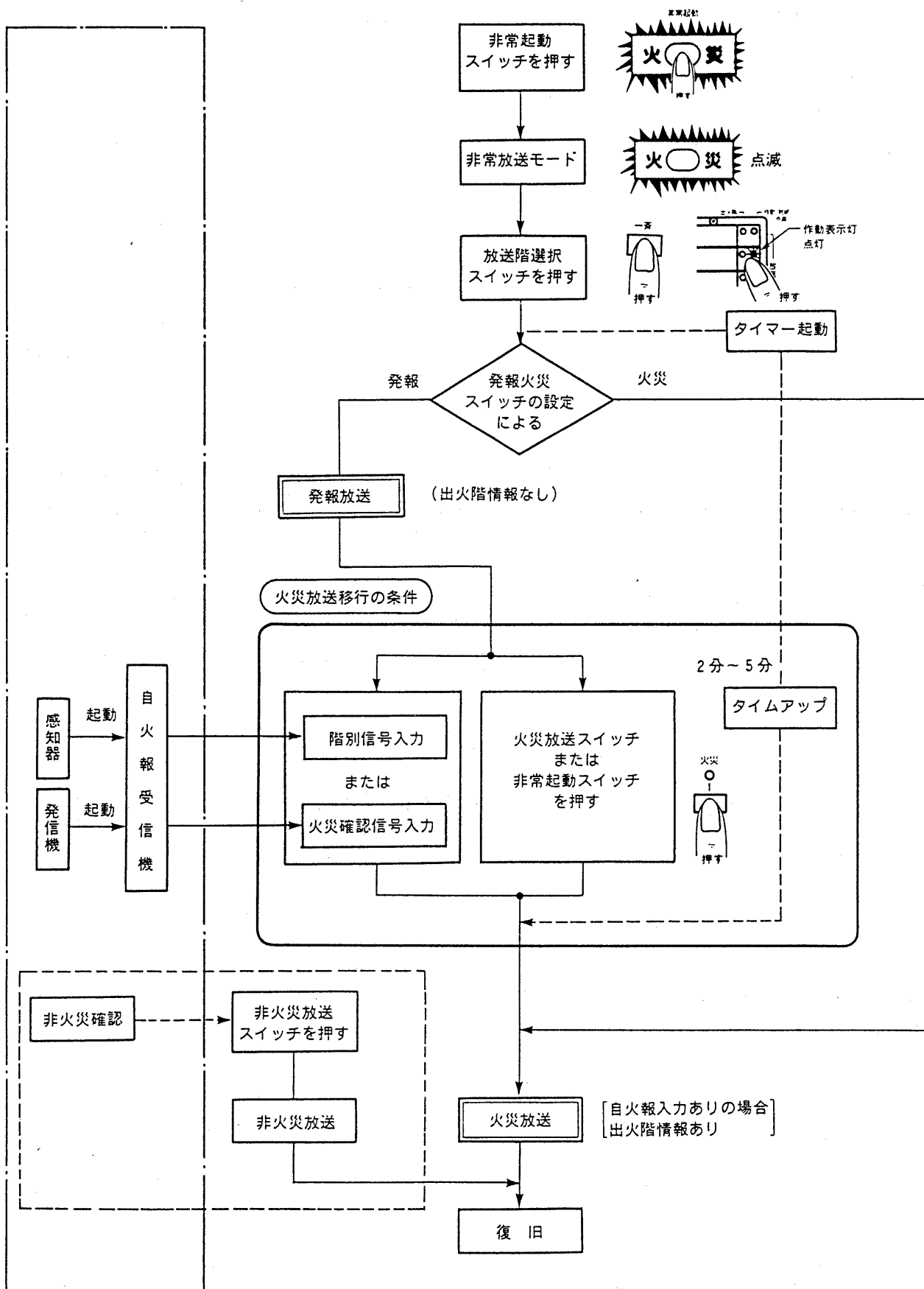
感知器起動（発報連動停止の場合）発報放送なし

非常放送のパターン B　発信機・非常電話起動

- 初めに発信機または非常電話が起動して、階別信号および火災確認信号が入った場合の動作パターンです。
- 階別および火災確認の信号が入力されると、非常放送モードとなり、発報火災切換スイッチの設定により、次の２つのモードに分かれます。
  - 発報…発報放送を自動的に放送(下記移行条件により火災放送に移ります。)
  - 火災…火災放送を自動的に放送
- 非火災放送は、非火災スイッチを押すことにより、いつでもできます。
- マイク放送は、発報放送、火災放送中でも常に優先して放送できます。

非常放送のしかた ③

発信機・非常電話起動（発報火災切換スイッチが発報側） 発報放送あり

非常放送のしかた ④

発信機・非常電話起動　（発報火災切換スイッチが 火災 側）の場合　発報放送 なし

非常放送のパターン C　手　動　起　動

- 初めに非常起動スイッチを押して、手動起動した場合の動作パターンです。
- 非常起動スイッチを押して、放送階選択スイッチを押すと、非常放送モードとなり、タイマーがスタートし、発報火災切換スイッチの設定により次の２つのモードに分かれます。
  - 発報…発報放送を自動的に放送(下記の移行条件により火災放送に移ります。)
  - 火災…火災放送を自動的に放送
- 非火災放送は、非火災スイッチを押すことによりいつでもできます。
- マイク放送は、発報放送、火災放送中でも常に優先して放送できます。

非常放送のしかた ⑤

手動起動　（発報火災切換スイッチが 発報 側）の場合　発報放送 あり

非常放送のしかた ⑥

手動起動 （発報火災切換スイッチが 火災 側） 発報放送 なし

業務放送のしかた

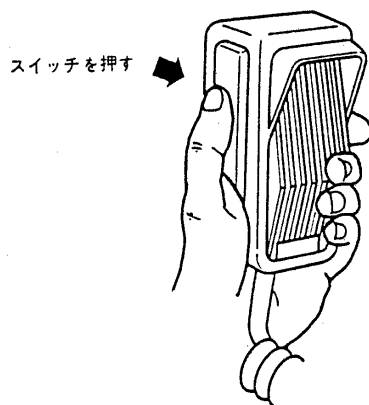
■準　備

●すべての音量調節ツマミが「左いっぱいに絞った」位置にあることを確かめてください。

●放送したい場所の放送階選択スイッチまたはブロック選択スイッチを押してください。放送可能表示灯が点灯し電源が入ります。

■操作のしかた

●非常、業務兼用マイクロホン⑨を使用するとき

●マイクを外し、スイッチを押しながら放送してください。

●ICチャイムの使いかた

●予告音としてチャイムを放送したい場合は、チャイムスイッチ㉘を一度押しますとチャイム音が放送されます。

●チャイム音を続けて放送する場合は、ボタンから一度指を離しチャイム音が鳴り終わってから約2～3秒たって、もう一度チャイムスイッチ㉘を押してください。

●有線マイクロホンを使用するとき

●端子台のマイク1入力またはマイク2入力にマイクロホンからのコードをつなぎます。このとき使用するマイクロホンは、インピーダンス200Ω～50kΩのものをお使いください。
（平衡形マイク、不平衡形マイクどちらでも使用できます。）

●マイク音量調節ツマミ㊲または㊳をゆっくり右にまわし、お好みの音量に調節してください。

ご注意
音量調節ツマミは配線上のノイズが発生する場合がありますので必要以上に右に回さないようにしてください。

●テープデッキ（カセットテープデッキ、オープンデッキ）CDプレーヤ等の外部機器を使用するとき

●外部機器を使用するときは、端子台のライン2入力またはライン3入力を使用してください。

●外部機器を動作させ、外部機器の音量調節ツマミか音量調節ツマミ㉟または㊱でお好みの音量に調節してください。

●放送内容を録音するとき

●端子台の録音出力にテープレコーダの「ライン入力（LINE IN）」を接続してください。

●テープレコーダの録音レベル調節器で最適レベルに調節しながら録音してください。

ご注意 停電時は業務放送できません。

●モニタのしかた

●本機にはモニタスピーカが内蔵されています。
モニタ音量調節器⑪で必要に応じて調節してください。

●非常・業務兼用マイクロホン⑨のマイク放送スイッチを押すとモニタスピーカの音が切れハウリングを防止します。

●放送の出力に応じて放送出力レベル計⑲のLEDが点灯します。緑色が点灯する範囲で音量を調節してご使用ください。

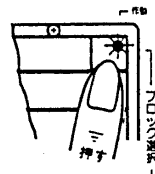
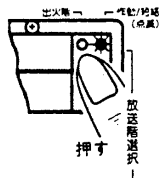
●別売の組み込みユニットの使いかた

●別売ユニットを組み込んでご使用のときは、ユニットに付属の取扱説明書をご参照ください。

●放送終了後は放送復旧スイッチ㉗を押してください。

■放送先の選択のしかた

- 全回線一斉に緊急放送したい場合は一斉放送スイッチ㉙を押します。
- 回線別に放送したい場合は放送階選択スイッチ㉞を押します。
- ブロック放送したい場合は、ブロック選択スイッチ㉚を押します。

➡ 選択された回線またはブロック指定された回線の階別作動表示灯㉝が点灯し、放送可能表示灯⑱が点灯します。
電力増幅器の電源が入ります。
緊急放送時(アッテネータのきかない放送時)は、放送階選択指示灯㉛が点灯します。

●ブロックスイッチで放送する場合

- ブロック放送をするとき……………………………………… ブロック選択スイッチ㉚を押します。
- ブロック放送を終了したとき………………………………… 選択したブロック選択スイッチ（階別作動表示灯㉝の点灯しているスイッチ）を再度押すか、放送復旧スイッチ㉗を押します。
- 2以上のブロックに放送するとき………………………… 放送したいブロックスイッチ㉚を順に押します。
- ブロックの中で放送したくない場所があるとき………… 放送したくない、不要な場所の放送階選択スイッチ㉞を押します。（階別作動表示灯㉝が消え、選択が解除されます。）
- 選択したブロックに放送したい場所を追加するとき…… 放送したい階別選択スイッチ㉞を押します。(階別作動表示灯㉝が点灯し、追加されます。)

ご注意

- ブロック放送は、あらかじめブロック選択スイッチ㉚に放送先を書き込む必要があります。
（ブロック放送は、緊急放送の指定もできます。）

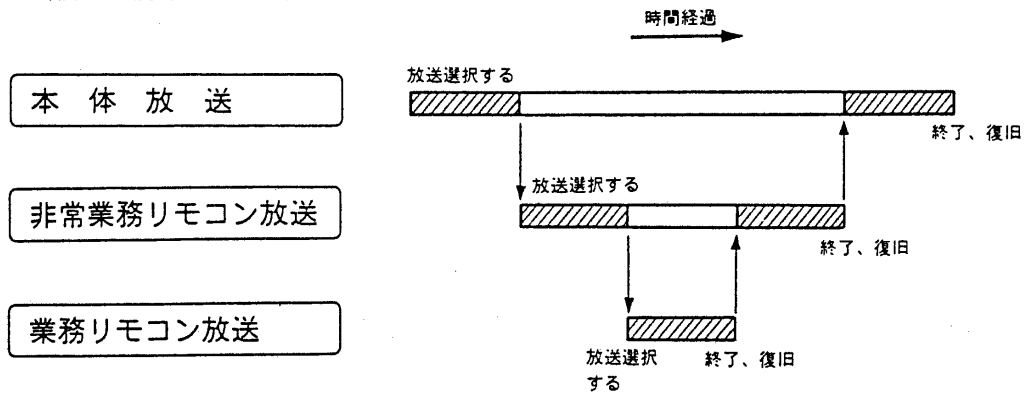
■業務放送の優先順位について

- 書き込みにより、次の例のように最大4段階に順位をつけることができます。
同一優先内は、後取り優先またはミキシングのどちらかに設定できます。
（設定のしかたは別冊の〝書き込みのしかた〞をご参照ください。）

（優先順位の例）

放送内容(入力)	第1優先	第2優先	第3優先	第4優先
時報チャイム	○			
本体放送		○		
非常業務リモコン		○		
業務リモコン			○	
ライン1入力				○

- 出荷時は、全ての放送が第1優先で後取り優先に設定されています。

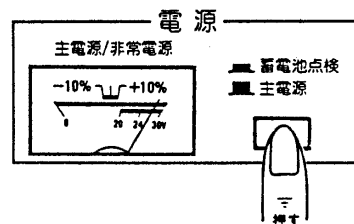
（後取り優先の動作例）

■オートレベルダウンについて

- ライン２入力、３入力および組み込みユニット入力の放送中にマイク放送および外部からの入力による放送をした場合に、ライン２入力、３入力および組み込みユニットの放送を自動的にレベルダウンさせることができます。
- レベルダウンの程度を調整したい場合は、23～24ページの調整のしかたに従って調整してください。
（出荷時はレベルダウンがない状態にセットしてあります。）

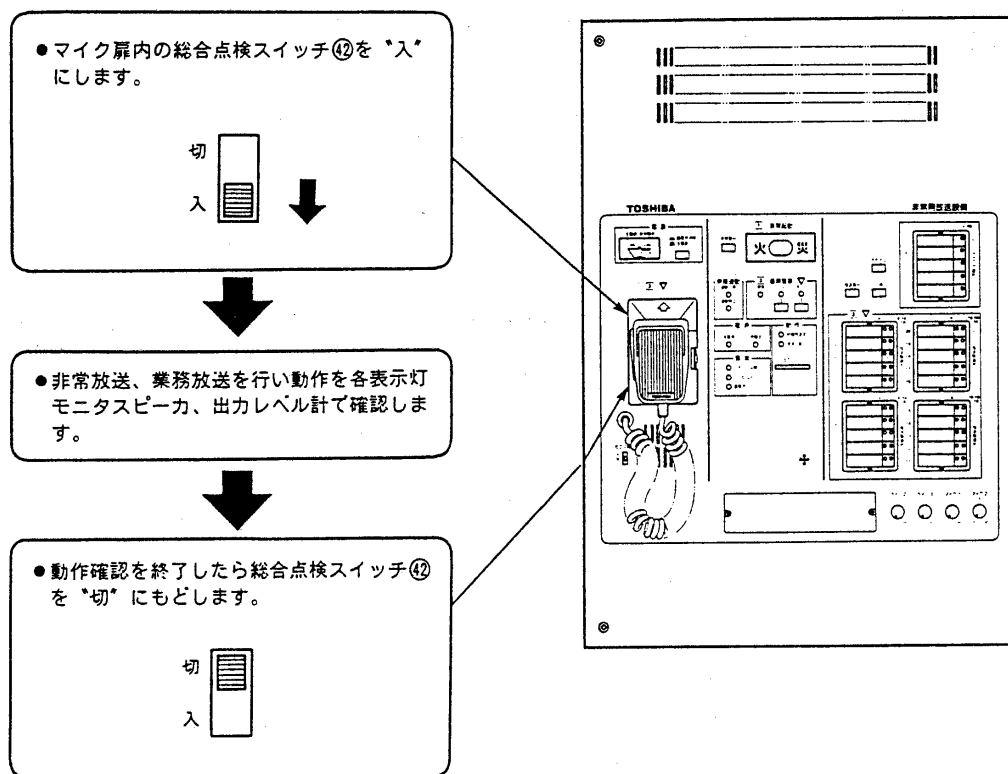
保守点検のしかた（保守点検者の方へ）

非常用放送設備の保守点検は有資格者（消防設備士、第２種消防設備点検資格者）でなければ行なえませんのでご注意ください。

非常用蓄電池のチェックのしかた

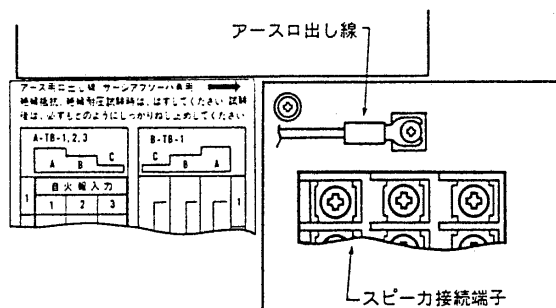
- 蓄電池点検スイッチ⑤でチェックします。点検スイッチ⑤を押したとき、主電源/非常電源電圧計④の指針が24〜30Ｖ線の間に振れれば十分です。
  この範囲内に振れないときは蓄電池が寿命ですのですぐに新しい蓄電池との交換が必要です。なお、蓄電池点検は１回５秒以内とし、５秒以上点検スイッチを押さないでください。
- 非常用蓄電池の標準寿命は約４年ですが、非常時に機器を正しく動作させるためにも上記の方法でチェックし、早めの交換をしてください。

※１　本機はトリクル充電方式を採用しており常時充電しております。

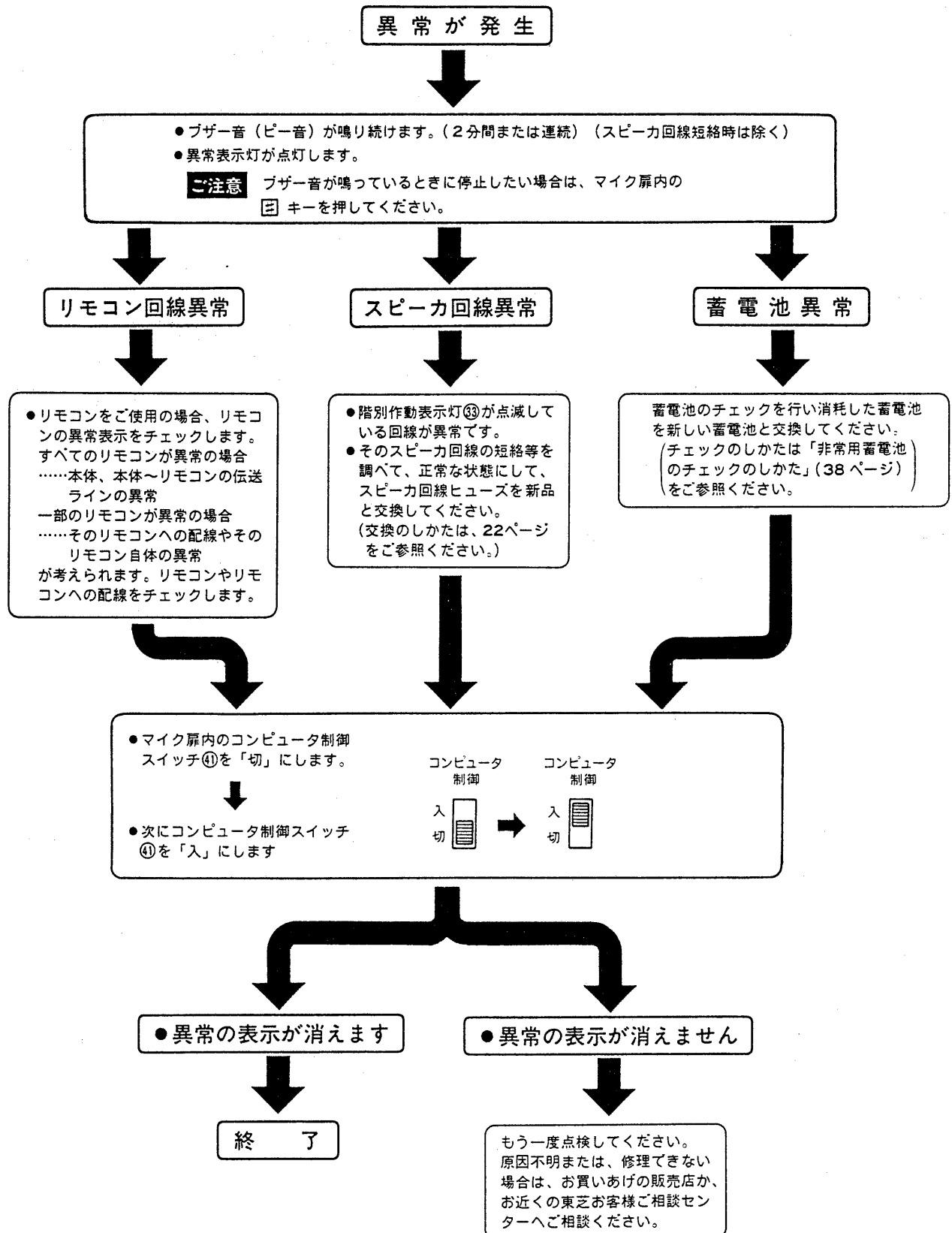
総合点検について

- スピーカから音を出さずに本機の総合点検ができます。

■絶縁耐圧試験、絶縁抵抗試験をするときは

消防検査、定期点検などで、スピーカ回線とアース間の絶縁耐圧、抵抗試験を行なうときは、スピーカ接続端子の上にあるアース用口出し線（サージアブソーバ専用）をはずしてから試験してください。（下図参照）

※サージアブソーバとは、機器を雷などの誘導電圧から守るための素子で、これを取付けたまま試験すると不合格となることがあります。

※試験終了後は必らずアース用口出し線を元にもどして接続してください。

自動点検について

- 本機では、常に非常業務リモコンとの通信、スピーカ回線の短絡の点検を自動的に行ないます。
- また、24時間ごとに蓄電池の電圧を点検しています。
- リモコンとの通信、スピーカ回線、蓄電池に何らかの異常が発生しますと異常表示灯が点灯し、異常表示します。
  下記の順でチェックしてください。

修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、電源スイッチを「切」にし、お買いあげの販売店またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。なお、ご相談されるときは機器の形名およびお買いあげ時期をお忘れなくお知らせください。ご相談される前にいま一度下表の項目を点検してください。

症	状	点検項目	処置
電源が入らない 電源表示灯が点灯しない	主電源表示灯⑫が消えている 充電中表示灯⑬が消えている	主電源(AC 100V)供給元のブレーカが作動していませんか	ブレーカを「入」にする
音が全く出ない		電源ヒューズ　が溶断していませんか	規定の▽マークの新しいヒューズと交換します
	電力増幅器ユニットのパワートランジスタ保護ヒューズが溶断している	このヒューズが溶断するのはスピーカラインが短絡、地絡したりすると溶断します　このようなことがありませんでしたか？	スピーカラインの短絡、地絡箇所をなおし、電力増幅器内部のヒューズを新しいヒューズと交換します　(注)
		スピーカのアッテネータが"OFF"の位置になっていませんか	スピーカアッテネータを1.2.3のいずれかの適正な位置にセットします
		異常表示灯が点灯していませんか	自動点検について (39ページ)に従ってチェックしてください
音が時々途切れる	特定の入力機器(マイクロホンなど)の放送が時々途切れる	その入力機器の接続コードが断線しかかっていませんか	接続コードの交換、手直しをします
	すべての放送が時々途切れる	途切れたとき放送出力レベル計⑲が全点灯（赤色のところまで全部点灯）しませんか	発振しています。 発振の原因を取り除きます　(注)

（注）これらの原因調査や交換はお買いあげの販売店またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご依頼ください。

仕　様

●壁掛形非常放送アンプ本体
10局用：AWH-1010RB, 20局用：AWH-1020RB

区分	項目	仕様
	使用電源	常　用：AC100V　50/60Hz 非常用：DC24V
	消費電力（電力増幅器ユニット組込時）	電力増幅器ユニット：60W / 120W / 240W ㊦：190W / 230W / 320W 定格出力時：280W / 420W / 700W
	適合電力増幅器ユニット	60W　AWH－600PA 120W　AWH－1200PA 240W　AWH－2400PA
ミキサー部	周波数特性	50～15000Hz ± 3 dB
ミキサー部	ひずみ率	1％以下
ミキサー部	音質調整	低：100Hz ±10dB（1kHz基準） 高：10kHz ±10dB（1kHz基準）
ミキサー部	マイク1入力（音量調節器付）	入力レベル　－64dB SN比　50dB以上 入力インピーダンス　600Ω　不平衡（平衡可）
ミキサー部	マイク2入力（音量調節器付）	入力レベル　－64dB SN比　50dB以上 入力インピーダンス　600Ω　不平衡（平衡可）
ミキサー部	チャイム入力	入力レベル　0dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　600Ω20不平衡（平衡可）
ミキサー部	ライン1入力	入力レベル　－20dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　600Ω　不平衡（平衡可）
ミキサー部	ライン2入力（音量調節器付）	入力レベル　－20dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　10kΩ　不平衡
ミキサー部	ライン3入力（音量調節器付）	入力レベル　－10dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　10kΩ　不平衡
ミキサー部	業務リモコン/外部入力	入力レベル　0dB/－20dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　600Ω　平衡
ミキサー部	ユニット入力	入力レベル　－20dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　10kΩ　不平衡
ミキサー部	録音出力	出力レベル　0dB 適合負荷インピーダンス　10kΩ以上　不平衡
非常業務操作部	マイク入力（非常業務兼用）	入力レベル　－46dB SN比　55dB以上 入力インピーダンス　600Ω　不平衡 周波数特性　300～6000Hz ± 3 dB ひずみ率　1％以下
非常業務操作部	音声警報メッセージ	感知器発報放送：ただいま○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので次の放送にご注意ください。 火災放送：火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ちついて避難してください。 非火災放送：さきほどの火災感知器の動作は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。
非常業務操作部	音声警報シグナル音	非常用放送設備委員会統一音
非常業務操作部	音声合成部	サンプリング周波数　8kHz以上 再生周波数帯域　3kHz以上
非常業務操作部	非常リモコン入力（2回路）	入力レベル　0dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　600Ω　平衡

区分	項目	仕様
非常業務操作部	出力レベル計	5ポイントLED
非常業務操作部	モニタスピーカ	1W/8Ω　音量調節器（3段階切換）付
非常業務操作部	階別作動表示	LED（緑）
非常業務操作部	出火階表示	LED（赤）
非常業務操作部	回線短絡表示	階別付動表示灯点滅
非常業務操作部	発報放送	LED（橙）
非常業務操作部	火災放送	LED（赤）
非常業務操作部	非火災放送	LED（緑）
非常業務操作部	運動停止表示	LED（赤）
非常業務操作部	運動一斉表示	LED（赤）
非常業務操作部	制御回線	放送階選択：AWH－1010RB　10回線＋一斉 AWH－1020RB　20回線＋一斉 ブロック選択：5回線
	負荷インピーダンス	60W：170Ω 120W：85Ω 240W：42Ω
	使用蓄電池	ニッカド蓄電池 形名／容量 60W　NBT－2000　1.65Ah/5HR 120W　NBT－3000　3.5 Ah/5HR 240W　NBT－4000　6.0 Ah/5HR （注）60Wで非常業務リモコン使用時には、NBT－3000を使用してください。
外部制御端子	スピーカ出力	AWH－1010RB　10回線 AWH－1020RB　20回線
外部制御端子	自火報制御入力	階別信号：AWH－1010RB　10回路 AWH－1020RB　20回路 火災確認信号：1回路
外部制御端子	非常リモコン	最大2台
外部制御端子	外部制御入力	12回路 （音声入力は、業務リモコン/外部、チャイム、ライン1のいずれかに設定可能）
外部制御端子	EB出力	1回路（無電圧メイク接点　DC24V　1A MAX）
外部制御端子	電源カットリレー出力	1回路（常時DC24V 出力・非常時断　接点容量 0.5A MAX）
外部制御端子	スピーカ切換出力	1回路（非常時無電圧メイク接点出力 DC24V　1A MAX）
	外形寸法	幅480mm　高さ670mm　奥行150mm
	質量	約19kg（電力増幅器ユニット、蓄電池を除く）
	外観	塗装色　メインカラー（マンセル3.7YR7.7/0.1近似色） シルク印刷　ブラウングレー（マンセル10YR4/1近似色）
	組込み適合ユニット	ラジオユニット　ARU－2200AF カセットテープユニット　ATU－1100C
	その他	（1）放送優先は、後取りまたはミキシング設定可能 （2）マイク放送、外部入力放送の優先（オートレベルダウン）機能付き （3）音声警報メッセージの英文追加可能
	付属品	ヒューズ（下表） 大形単頭プラグ（6.3φ, 3P）……1 取扱説明書……1 書き込みのしかた……1 非常放送のしかた……1 壁取付用型紙……1 東芝お客様ご相談センター一覧表……1

AWH-1010RB	AWH-1020RB
0.3A(小形)………10	0.3A(小形)………20
0.5A………1	0.5A………1
1A………1	1A………1
2A………1	2A………1

●電力増幅器ユニット

60W：AWH-600PA, 120W：AWH-1200PA, 240W：AWH-2400PA

使用電源	常用：AC100V 50/60Hz 非常用：DC24V		
消費電力 ㊥	AWH－600PA； 62W AWH－1200PA； 110W AWH－2400PA； 200W		
定格出力時消費電力	AWH－600PA； 160W AWH－1200PA； 300W AWH－2400PA； 580W		
定格出力	AWH－600PA； 60W AWH－1200PA； 120W AWH－2400PA； 240W		
組込み適合機器	壁掛形非常放送アンプ本体 AWH－1010RB（10局） AWH－1020RB（20局）		
周波数特性	50Hz（－5dB以内）～15kHz（－6dB以内） （1kHz基準） 建設省規格1級に適合		
ひずみ率	1%以下（1kHz基準）		
SN比	60dB以上		
入力回路	0dB 600Ω 平衡		
負荷インピーダンス（100Vライン）	AWH－600PA； 167Ω AWH－1200PA； 83Ω AWH－2400PA； 42Ω		
質量	AWH－600PA；約7kg AWH－1200PA；約9kg AWH－2400PA；約16kg		
付属品	ヒューズ		
	AWH-600PA	AWH-1200PA	AWH-2400PA
	3A………1	4A………1	7A………1
	5A………2	7A………2	15A………2
	取付用ねじ（M5×10）……………4		